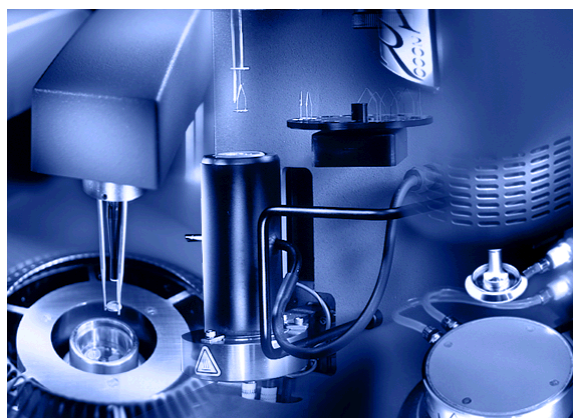


アドバンテージ インテグリティTM



スタートアップガイド

改訂 A:
2003 年 8 月発行



©2001, 2003 by TA Instruments-Waters LLC
109 Lukens Drive
New Castle, DE 19720

注 意

本マニュアル、および本装置をサポートするソフトウェアのオンライン ヘルプには、本装置の使用に際し十分であると思われる情報が記載されています。装置または手順を、ここで指定する目的以外に使用する場合は、必ず TA Instruments から適切かどうかの確認を受けるようにしてください。確認なく、装置や手順を利用される場合、TA Instruments では、その結果に対する保証や責任を一切負いません。また、TA Instruments は、予告なしに本マニュアルを改訂、変更する権利を有します。

TA Instruments は、本マニュアルで扱う特許、特許アプリケーション、商標、著作権、または他の知的所有権を有します。TA Instrument が発行する書面によるライセンスで明記されているものを除き、本マニュアルの付属物は、これらの特許、商標、著作権、または他の知的所有権に対するライセンスを供与するものではありません。

TA Instruments の TA オペレーティング ソフトウェアおよびモジュール、データ分析、ユーティリティソフトウェア、およびその関連マニュアルの所有権および著作権は、TA Instruments 社に帰属します。購入者には、同時に購入した装置およびコントローラでこれらのソフトウェアプログラムを使用するためのライセンスが供与されます。これらのプログラムを、TA Instruments の事前の書面による許可なく複製することは禁止されています。ライセンス供与された各プログラムの所有権は TA Instruments に帰属し、上記で明記された以外のいかなる権利またはライセンスも購入者に供与されることはありません。

商標および特許

この文書に記載された情報には、以下が適用されます。

TA Instruments 商標

Q Series™ は、TA Instruments Waters LLC (109 Lukens Drive, New Castle, DE 19720) の商標です。

Advantage Integrity™ は、TA Instruments Waters LLC (109 Lukens Drive, New Castle, DE 19720) の商標です。

Modulated DSC® および MDSC® は、TA Instruments Waters LLC (109 Lukens Drive, New Castle, DE 19720) の登録商標です。

Tzero™ は、TA Instruments Waters LLC (109 Lukens Drive, New Castle, DE 19720) の商標です。

μ TA® は、TA Instruments—Waters LLC (所在地、109 Lukens Drive, New Castle, DE 19720) の登録商標です。

Smart Swap™ は、TA Instruments—Waters LLC (所在地、109 Lukens Drive, New Castle, DE 19720) の商標です。

Hi-Res™ は、TA Instruments—Waters LLC (所在地、109 Lukens Drive, New Castle, DE 19720) の商標です。

Mobius Drive™ は、TA Instruments—Waters LLC (所在地、109 Lukens Drive, New Castle, DE 19720) の商標です。

TA Instruments 特許

『モジュレイテッドDCS(示差分析) (MDSC®) の方法と装置』は、TA Instruments Waters—LLC が特許権を有するテクノロジーを説明したものです(米国特許番号 5,224,775; 5,248,199; 5,346,306. 追加特許番号 CA 2,089,225、JP 2,966,691 および BE、DE、EP、GB、IT、NL 0559362)。

『熱流束型 DSC センサー (Tzero™)』は、TA Instruments—Waters LLC が特許権を有するテクノロジーを説明したものです(米国特許番号 6,431,747)。

(次のページに続く)

TA Instruments 特許(続き)

『モジュレイテッド熱重量測定 (MTGA™) の方法と装置』は、TA Instruments – Waters LLC が特許権を有するテクノロジーを説明したものです(米国特許番号 6,336,741 および 6,113,261)。

『モジュレイテッド熱機械分析』は、TA Instruments Waters LLC が特許権を有するテクノロジーを説明したものです(米国特許番号 6,007,240)。

『ダイナミック示差分析の方法と装置』は、TA Instruments Waters LLC が特許権を有するテクノロジーを説明したものです(米国特許番号 5,474,385 および EP 特許番号 0701122)。

『AC 示差熱分析の方法および装置』は、TA Instruments Waters LLC が特許権を有するテクノロジーを説明したものです(米国特許番号 5,439,291)。

『物質成分の高分解能分析の方法と装置』は、TA Instruments Waters LLC が特許権を有するテクノロジーを説明したものです(米国特許番号 5,368,391 および 5,165,792。追加持特許番号 CA 2,051,578 および DE、EP、FR、GB、IT 0494492)。

『熱伝導率測定の方法と装置』は、TA Instruments Waters LLC が特許権を有するテクノロジーを説明したものです(米国特許番号 5,335,993 および EP 特許番号 0634649)。

『オプティカル エンコーダーとリニアーマーター装備の動的および熱機械測定装置』は、TA Instruments Waters LLC が特許権を有するテクノロジーを説明したものです(米国特許番号 5,710,426)。

『熱重量分析装置』は、TA Instruments Waters LLC が特許権を有するテクノロジーを説明したものです(米国特許番号 5,321,719)。

『入力補償型 DSC (Tzero)』は、TA Instruments Waters LLC が特許権を有するテクノロジーを説明したものです(米国特許番号 6,428,203)。

『DSC (Tzero)』は、TA Instruments Waters LLC が特許権を有するテクノロジーを説明したものです(米国特許番号 6,488,406)。

『物質の粘弾特性測定の方法と装置』は、Rheometric Scientific, Inc. が特許権を有するテクノロジーを説明したものです(TA Instruments – Waters LLC が 2003 年 1 月に取得)(米国特許番号 4,601,195)。

その他の商標

Windows® NT、2000、XP、98、98SE、Me、Microsoft Excel® および Microsoft Word 97® は、Microsoft Corporation の登録商標です。

Adobe® Acrobat® Reader® は、Adobe Systems Incorporated の登録商標です。

Oracle® および Oracle9i™ は、Oracle Corporation の商標または登録商標です。

TrueMetrix™ および Scanning Tip Technology™ は、ThermoMicroscopes, Inc. の登録商標です。

CHROMEL® および ALUMEL® は、Hoskins Manufacturing Company の登録商標です。

Teflon® は、E. I. du Pont de Nemours and Company の登録商標です。

Loctite® は、Loctite Corporation の登録商標です。

Swagelok® は、Swagelok Company の登録商標です。

Inconel® は、Inco Alloys/Special Metals の登録商標です。

X-acto® は、Hunt Corporation の登録商標です。

TYGON® は NORTON Co. の登録商標です。

TA Instruments の Q シリーズ モジュールには、Mentor Graphics が著作権を有するエンベデッド オペレーティング システム ソフトウェアが含まれています。

SILICON SOFTWARE

©1989-97 Mentor Graphics Corporation, Microtec Division. All rights reserved. 未発表
Unpublished-rights reserved under the copyright laws of the United States.

制限付き権利条項

複製の使用、米国政府または米国政府の請負業者による開示は、DFARS 227.7202-3(a) に準拠しソフトウェアに同梱されたライセンス契約に規定されている、または FAR 52.227-19 の商業用コンピュータ ソフトウェア制限付き権利条項のサブパラグラフ (c) (1) および (2) で規定されている制限に従うものとします。

MENTOR GRAPHICS CORPORATION, MICROTEC DIVISION,
880 RIDDER PARK DRIVE, SAN JOSE, CA 95131-2440

TA Instruments エンドユーザ使用許諾契約

本使用許諾書はライセンスの証明となるものです。紛失しないように、大切に取扱ってください。

重要 - 次の内容をよくお読みください。本書は、本 TA Instruments のインスツルメント コントロールおよびデータ分析ソフトウェア製品に関する、お客様（個人または組織）と TA Instruments の間の法的契約書です。ディスク/CD-ROM のパッケージを開封し、本ソフトウェアをインストール、コピー、使用した時点で、この同意書に関する条件を承認するものとします。本ライセンスの条件が遵守されない場合は、両者間の同意と、本ソフトウェアを使用する権利は破棄されます。

TA Instruments ソフトウェア ライセンス

1. 使用許諾: 本 TA Instruments エンドユーザ ソフトウェア使用許諾書（以下「ライセンス」という）では、以下の権利をお客様に付与します。
 - a) **インスツルメントコントロールソフトウェア**: 本ライセンスによって、TA Instruments のインスツルメントコントロールソフトウェア製品の特定バージョンのコピーを一部使用する権利が付与されます。ソフトウェアのライセンスを複数所有されている場合は、ライセンスと同じ数のソフトウェアのコピーを使用することができます。ソフトウェアの予定ユーザ数が、適用ライセンス数を超過する場合、ソフトウェアを同時に使用する人数がライセンス数を超過しないようにする、合理的なメカニズムかプロセスを導入する必要があります。
また、本ソフトウェアを社内ネットワークの他のコンピュータにインストールし、実行することのみを目的として、ネットワーク サーバーなどの格納デバイスに TA Instruments のインスツルメントコントロールソフトウェアのコピーを 1 部格納またはインストールすることができます。ただし、格納デバイスから本ソフトウェアをインストールまたは実行する各コンピュータに対して、それぞれライセンスを購入する必要があります。本ソフトウェアのライセンスでは、複数のコンピュータ上で同時に共有、使用することは認められていません。
 - b) **データ分析ソフトウェア**: TA Instruments の熱およびレオロジー データ分析ソフトウェアは、コンピューター台のみの使用に制限されません。これらのプログラムは、「ライセンスのある」インスツルメントコントロールソフトウェアで生成されたデータ分析に使用するという条件で、複数コンピュータにインストールできます。
2. 所有権: 上記のソフトウェアは、TA Instruments ならびにそのサプライヤーが所有し、米国著作権法および国際著作権条約によって保護されています。TA Instruments およびそのサプライヤーは、すべての著作権、特許権、企業秘密権、商標、その他の知的所有権を含む、本ソフトウェアのすべての権利、資格および利益を所有および保持します。お客様による本ソフトウェアの所持、インストールまたは使用によって、本ソフトウェアの知的所有権がお客様に付与されることはありません。また、本ライセンスに明示的に記されている場合を除いて、本ソフトウェアのいかなる権利もお客様に帰属しません。

(次のページに続く)

3. 使用制限:本ライセンスは、それによって供与される権利を行使するライセンスの証明となるもので、使用者が保持しなければなりません。以下の事項も、本ライセンスに含まれる上記のソフトウェアに適用されます。
- a) 本ソフトウェアの賃貸または貸与はできません。しかし、本ライセンス、ソフトウェア、セキュリティキー、および付随する書類すべてを、コピーを保持せず譲渡し、譲渡を受けた者が本ライセンスの規定に同意するという条件で、永久的な権利移譲を行うことができます。本ソフトウェアを移譲する場合は、最も新しいバージョンとそれ以前のバージョンすべてを含める必要があります。
 - b) 本制限がある場合でも、該当する法律によって明示的に許可されている場合を除いて、本ソフトウェアをリバースエンジニアリング、逆コンパイルまたは分解することはできません。
 - c) 本ソフトウェアは、単一製品としてライセンスが付与されているもので、部品を複数のコンピュータで個別に使用することはできません。
 - d) 他のいかなる権利も侵害せずに、お客様は本ライセンスの使用条件への準拠を怠った場合、TA Instruments は、本ライセンスの効力を終了させる権利を有します。このような場合、お客様は、本ソフトウェアおよびそのすべての部品を破棄する必要があります。
4. 無保証:本ソフトウェアおよびマニュアルは「現状のまま」提供されるもので、使用者の自己責任において使用してください。TA Instruments は、本ソフトウェアの使用に際して、明示的、暗黙的、法的なものを含め、いかなる問題に対しても保証は負いません。特に、その商品性と特定目的に対する適合性、サードパーティの権利の非侵害に対する保証は、すべて明示的に除外されています。さらに TA Instruments では、提供されたソフトウェアおよびマニュアルにエラーやウィルスが存在しないこと、またはソフトウェアおよびマニュアルが、使用者の目的に適ったものであるという表明や保証は一切行いません。

責任の制限:TA Instruments およびそのサプライヤーは、ユーザおよびその他の当事者に対して、ソフトウェアおよび/またはマニュアルを使用した、あるいは使用できなかったことに起因または関連するいかなる偶発的、特別、間接的な損害、データ損失あるいは結果的にもたらされたデータの不整合性、利益や収入の損失、事業の中断などに対して、契約書の規定、不法行為(過失も含む)、製造物責任などの行為形態に関わらず、一切責任を負いません。これらの損害の可能性について、TA Instruments およびそのサプライヤーに事前通告があった場合も同様です。

本ライセンスは、上記のソフトウェアに関する、お客様と TA Instruments との間の全面的な同意を表します。この同意内容は、これ以前に行われた両者間のいかなる提案、表示、了解に優先します。

メモ:アドバンテージ インテグリティ ソフトウェアと併用する Oracle® ソフトウェアは、TA Instruments のアドバンテージ インテグリティのライセンス同意書には含まれません。Oracle データベース ソフトウェアのユーザは、Oracle Corporation により指定された利用規定に従う必要があります。

目次

商標および特許	3
TA Instruments 商標	3
TA Instruments 特許	3
その他の商標	5
TA Instruments エンドユーザ使用許諾契約	6
TA Instruments ソフトウェア ライセンス	6
目次	8
メモ、注意、および警告	11
第 1 章:アドバンテージインテグリティ™ について	13
概要	13
アドバンテージインテグリティシステムのコンポーネント	13
電子記録の構成要素とは?	14
TA システム マネージャーの責任	15
システムにアクセスする	16
ログイン	16
パスワードを変更する	17
TA システム マネージャーについて	18
システム マネージャーの初期設定	19
ユーザアカウントを新規作成する	20
グループをセットアップする	22
1 つのグループに複数のユーザを割り当てる	24
1 つのグループを 1 人のユーザに割り当てる	25
権限を割り当てる	26
1 つのグループに権限を割り当てる	27
権限にグループを割り当てる	29
システムプロジェクトを定義する	31
プロジェクトに複数のユーザを割り当てる	33
プロジェクトを 1 人のユーザに割り当てる	34



システム モジュールを定義する	35
1 つのモジュールに複数のユーザを割り当てる	37
1 人のユーザにモジュールを割り当てる	38
システム設定オプション	39
サーバーおよびデータベース情報	39
TA システム オプションを変更する	40
活動およびシステム ログ	42
チェック イベントの表示プロパティ	43
第 2 章: インテグリティ™ システムを使用する	45
概要	45
全般的な変更	45
インテグリティのライセンスで保護された装置を使用する	46
複数ユーザの処理単一装置の場合	49
インテグリティのライセンスで保護されたユニバーサルアナリシスを使用する ..	50
インテグリティのライセンスで保護されたレオロジー データ分析を使用する ...	53
データベースビューを使用する	55
ツリー ビューでデータを特定する	56
ソート順序をカスタマイズする	57
監査査証イベントを表示する	58
記録されるイベントとは?	59
インストルメントコントロールイベント	59
ユニバーサルアナリシスイベント	59
レオロジーデータ分析イベント	60
TA システム マネージャー イベント	60
監査査証コメントを追加する	61
既存の監査査証エントリにコメントを追加する	61
新しい監査査証エントリを追加する	62
監査査証エントリのレポートを表示する	63

第 3 章:データベースのバックアップとアーカイブ	65
概要	65
ビルトイン Oracle® 装置	66
追加のバックアップ ユーティリティ	66
データのアーカイブ	67
TA Instruments 所在地	68
索引	71



メモ、注意、および警告

以下の規則は、本マニュアルを通読する上で重要度の高い項目を強調する目的で、使用するものです。

メモは、機器や手順に関する重要な情報を強調するものです。



注意は、正しい手順を踏まないと、機器の損傷やデータの損失を引き起こす可能性があるものを強調します。



警告は、正しい手順を踏まないと、オペレータや環境に危険が及ぶ可能性のあるものを示します。



第 1 章

アドバンテージインテグリティ™ について

概要

FDA (米国食品医薬局) が定める、電子記録および電子署名に関する規定 (21 CFR パート11) には、文書を電子形式で送信する際の条件が定義されています。TA Instruments は、この規定の重要性を理解し、ソフトウェア開発において準拠を心がけています。クローズドシステムは、抜粋 11.3 で「システム上にある電子記録の内容に責任のある者がシステム アクセスをコントロールする環境」と定義されています。TA Instruments のアドバンテージ インテグリティソフトウェアは、クローズドシステムです。SOP (標準業務手順書) において、アドバンテージ インテグリティソフトウェアの機能をサポートおよび補完するために電子記録や電子署名を使用している企業にとって、規定への準拠は重要です。

21 CFR パート 11 規定では、電子署名機能をオプションとして定義付けています。アドバンテージ インテグリティソフトウェアでは、電子署名を提供していません。したがって、本ソフトウェアに対して、セクション 11.50、11.70、11.100、11.200 および 11.300 は適用されません。

アドバンテージインテグリティシステムのコンポーネント

TA Instruments の基本的なアドバンテージ インテグリティシステムは、1 台の装置制御コンピュータ (“コントローラ” という)、および専用の Oracle データベース サーバーとすべての通信を行う 1 台以上の装置にインストールされている、ライセンスソフトウェアで構成されます。また装置は、Q Series™ DSC や TGA、または AR シリーズレオメーターで構成される場合もあります。サーバーは、ローカルで接続されるか、または社内ネットワークを通じて接続されます。詳細については、プログラム付属のオンライン ヘルプを参照してください。

電子記録の構成要素とは？

電子記録は、「コンピュータシステムによって作成、修正、保守、アーカイブ、検索または配布される、デジタル形式のテキスト、グラフィックス、データ、オーディオ、写真、その他の情報表現のあらゆる組み合わせ」と定義されています。TA Instruments のアドバンテージインテグリティシステムにおいて、これらの電子記録は以下で構成されています。

1. 試験生データ (熱分析とレオロジー)
2. 保存されている分析データファイル (熱分析およびレオロジー)
3. 保存されているデータ分析セッション ファイル (熱分析およびレオロジー)

熱分析のみ:

4. 保存されている全般分析ビットマップ (.bmp) イメージ ファイル
5. 保存されているデータ分析 Acrobat PDF ファイル
6. 保存されている全般分析テキスト ファイル

レオロジーのみ:

7. インストルメントコントロールのジオメトリ ファイル
8. インストルメントコントロールの手順ファイル
9. インストルメントコントロールのセッション ファイル
10. データ分析グラフ
11. データ分析ポリマー ライブラリ
12. データ分析レポートテンプレート
13. データ分析ユーザ定義モデル
14. データ分析ユーザ定義変数
15. データ分析レポートのテンプレートおよび設定
16. データ分析専用レポート
17. データ分析オプション*

*データベースに格納されますが、アクセスできません。

TA システムマネージャーの責任

TA システム マネージャーは、本システムにおいて非常に重要な役割を担います。インテグリティ システムごとに 1 人以上の TA システム マネージャーをつける必要があります。TA システム マネージャーは、アドバンテージ Q シリーズソフトウェアに慣れている人材が最適です。TA システム マネージャーには、以下の責任があります。

1. システムの構成要素 (ユーザ、プロジェクト、グループ、モジュール) を定義する。
2. 指定のグループ、プロジェクトおよびモジュールに、それぞれユーザ アカウントを割り当てる。
3. ユーザ アクセス権を定義する。各グループ内で、TA システム マネージャーは、装置やデータ分析にアクセス権 (権限) を定義でき、企業の SOP (標準業務手順書) に則していない機能へのアクセスを制限することができます。
4. パスワード ポリシーを設定する。データベースシステムでは、システムの一貫性を保つためにパスワード保護機能を採用しています。
5. データベースを保守する。

システム マネージャーは、ユーザ アカウントやプロジェクト、装置、データベースシステムをセットアップする前に、次のセクションの手順に従って適宜ログインする必要があります。

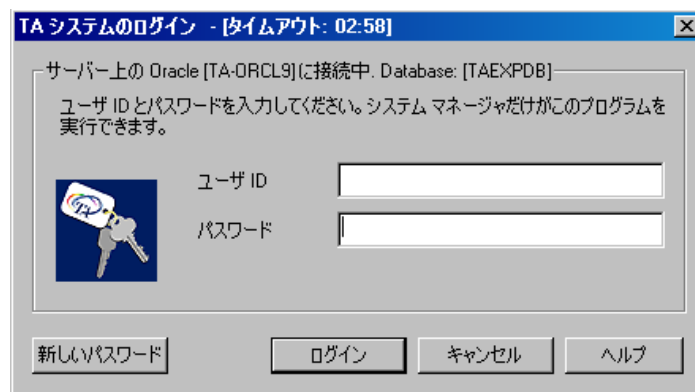
メモ: データベースシステムの一貫性を保つため、システム マネージャー グループのメンバーであるユーザのみが、システム マネージャーに割り当てられた機能を使用することができます。したがって、プロジェクト、モジュール、その他のグループは、システム マネージャー グループのメンバーに割り当てることができません。

システムにアクセスする

ログイン

データベースシステム、TA システム マネージャー プログラム、インストルメントコントロールプログラム、またはデータ分析プログラムのいずれかのソフトウェア コンポーネントを起動すると、[ログイン] ウィンドウ (下記参照) が表示されます。ユーザ アクセス (ログイン) には、ユーザ ID (またはログイン名) とパスワードが必要です。TA システム マネージャーが設定している場合、ユーザ ID とパスワードは大文字と小文字を区別します。

プログラムを初めて使用する際、TA システム マネージャーが定義したユーザ ID と任意のパスワードを入力するよう要求されます。ユーザは、初回ログイン時にパスワードを直ちに変更する必要があります。



一定の無操作時間を過ぎると、システムによって自動的にログアウトさせられます。この無操作時間は (“ログイン セッション タイムアウト” という) は、TA システム マネージャーが定義します。しかし、システムから離れるときに各自でログアウトすることを推奨します。

パスワードを変更する

データベースシステムでは、システムとオーディットトレイルの一貫性を保つためにパスワード保護機能を採用しています。ログインパスワードは、いつでも変更できます。また、有効期限が過ぎたときは必ず変更してください。有効期限はTAシステムマネージャーが設定します。パスワードの有効期限が過ぎる少し前から、ログインのたびに「パスワード有効期限」のお知らせが表示されるようになります。次の手順に従って、パスワードを変更します。

1. 適切なプログラムを起動します。[ログイン]ウィンドウが開いたら、ユーザ ID と古いパスワードを入力し、[新しいパスワード] を選択します。次のように表示されます。
2. [新しいパスワード] に入力します。すべてのパスワードに対して、次の規則が適用されます。
 - a. パスワードは、TA システムマネージャーが定義した文字数以上で指定してください。数字、記号、文字を好きなように組み合わせて使用することができます。
 - b. パスワードにスペースは使用できません。
 - c. TA システム マネージャーが設定している場合、ユーザ ID とパスワードは大文字と小文字を区別します。
 - d. 特定のユーザアカウントに一度使用したパスワードは、二度と使用できません。
3. 確認のため、新しいパスワードをもう一度入力します。
4. [OK] ボタンをクリックします。

TA システムマネージャーについて

TA システム マネージャーが正常にログインすると、次のような開始ウィンドウが表示されます。TA システム マネージャー プログラムを使って、ユーザ アカウント、グループ、プロジェクトおよびモジュールを作成、編集します。








開始ウィンドウの左に、このプログラムで使用するツール セットがあります。いずれかのツールをクリックすると、関連するシステム マネージャー オプションが表示されます。各オプションは他のオプションと関連付けられており、多くの機能を 2 カ所で実行することができます。(たとえば、ユーザにグループを割り当てる場合と、グループにユーザを割り当てる場合では、使用するダイアログが異なります。)

このマニュアルでは、ツールの概要、およびシステムの初期設定の設定方法に関する概要を説明します。詳細は、オンライン ヘルプを参照してください。

システムのインストールが完了すると、システム マネージャーは、データベースへのアクセスに必要なユーザ アカウントを各ユーザに作成する必要があります。それぞれの操作方法については、次のセクションの説明に従ってください。


システムマネージャーの初期設定

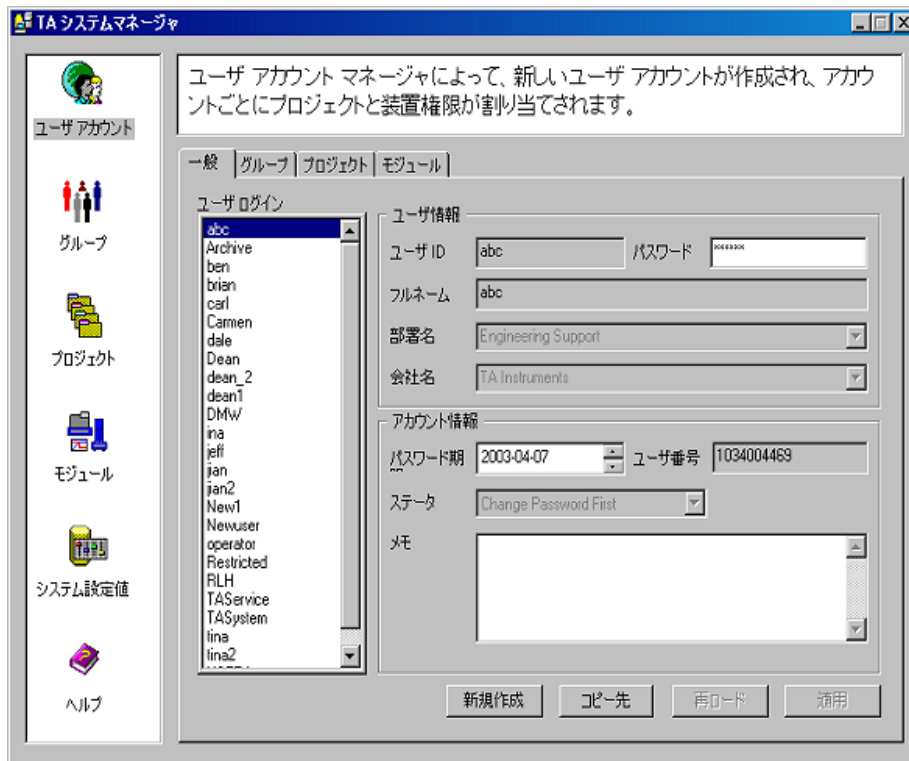
次の基本ステップに従って、システムのコンポーネントをセットアップします。

1. ユーザ アカウント マネージャー  を使って、データベース システムへのアクセスに必要なユーザ アカウントを各ユーザに新規作成します。ユーザ アカウントの作成後、このツールを使用して、作成したアカウントの管理や追加アカウントの作成を行います。メモ:[全般] ページの必要情報は、最初に入力してください。詳細については、20 ページを参照してください。
2. グループ マネージャー  を使って、ユーザ グループとそれぞれの権限を定義します。グループの作成後、このツールを使用して、作成したグループの管理やモジュールの権限リストの定義、追加ユーザ グループの作成を行います。ユーザ アカウントは、1 つ以上のさまざまなユーザ グループに割り当てることができます。詳細については、22 ページを参照してください。
3. プロジェクト マネージャー  を使って、新しいプロジェクトを定義します。プロジェクトの作成後、このツールを使用して、作成したプロジェクトの管理や追加プロジェクトの作成を行います。ユーザ アカウントは、1 つ以上のさまざまなプロジェクトに割り当てることができます。詳細については、31 ページを参照してください。
4. モジュール マネージャー  を使って、すべてのモジュールがシステムに追加されていることを確認します。モジュールの作成後、このツールを使用して、モジュールの管理やプロジェクトの追加を行います。1 つ以上のさまざまなモジュールに、ユーザの権限を割り当てることができます。詳細については、35 ページを参照してください。
5. システム設定マネージャー  を使って、システムのデフォルト設定を表示、管理します。詳細については、39 ページを参照してください。
6. 設定内容を確認します。


ユーザアカウントを新規作成する

ユーザは、このシステムへのアクセス権を持つアカウントとして定義されます。次の手順に従って、ユーザアカウントを新規作成します。

1. TA システム マネージャーにログインし、[ユーザ アカウント] アイコン  をクリックして、ユーザ アカウント マネージャーを開きます。
2. [一般] ページを選択します（下記参照）。このウィンドウには、新規ユーザ アカウントの全般情報が表示されます。



3. [新規] ボタンをクリックします。一部のフィールドの内容が自動的に消去されます。
4. 新しいユーザ ID を入力します。ユーザ ID は、半角 20 文字以内で入力してください。アカウントの作成が完了すると、パスワード以外のアカウント情報は変更できません。

5. 16 ページのパスワードの規則を参考にして、デフォルトのパスワードを入力します。このデフォルトのパスワードは、システム マネージャーが定義しますが、ユーザは初回ログイン時に変更する必要があります。
6. ユーザの名前をフルネームで入力します。半角 50 文字 (全角 25 文字) まで入力できます。
7. 部署名をリストから選択するか、または直接入力します。入力した部署名はリストに追加されます。半角 50 文字 (全角 25 文字) まで入力できます。
8. 企業名をリストから選択するか、または直接入力します。入力した企業名はリストに追加されます。半角 50 文字 (全角 25 文字) まで入力できます。
9. パスワードの有効期限 [Pwd] を変更します。必要に応じて失効させることもできます。この日付は、ユーザ アカウントの作成日から計算します。デフォルトのパスワードの有効期限は、システム設定マネージャー  を使って設定します。
10. 新しいアカウントのステータスが、「最初にパスワードを変更」に自動的に変わります。[適用] ボタンを押すと、ユーザがパスワードを変更するまでステータスを変更できなくなります。
11. 必要に応じて、ユーザ アカウントに関する補足情報を入力します。半角 256 文字 (全角 128 文字) まで入力できます。
12. [適用] ボタンを押して、新しいユーザ アカウントを追加します。入力したパスワードの確認を求めるメッセージが表示されます。(新しいアカウントを作成している間に、[リロード] ボタンを押すと操作を取り消すことができます。)

メモ: システム マネージャーは、ユーザ アカウントのパスワードの有効期限、およびアカウントの有効/無効を制御します。作成したユーザ アカウントは、有効/無効を切り替えることはできますが削除できません。

13. ステップ 1 ~ 12 を繰り返して、必要なユーザ アカウントを追加します。

ユーザ アカウントの作成が完了したら、ユーザ グループ、プロジェクトおよびモジュールをセットアップします。次ページ以降の手順に従ってください。初めてセットアップしたアイテムに、ユーザ アカウントを説明どおりに割り当てます。

グループをセットアップする

グループでは、システム内のモジュール（たとえば、装置やデータ分析プログラムなど）に関連付けられる一連の権限を定義します。これらのグループは、ユーザ アカウントに割り当てられ、アクションを定義された権限内に制限します。


各ユーザ アカウントには、1 つ以上のグループを割り当てることができます。1 つのユーザ アカウントに複数のグループを割り当てると、割り当てたグループの上位グループによって割り当て可能な「アクション」が定義されます。つまり、ユーザに特定のアクションの使用を許可するグループ（たとえば、グループ A）が割り当てられている場合、そのアクションの使用が許可されていない別のグループ（たとえば、グループ 2）も割り当てられているとしても、そのユーザはログイン時にそのアクションを使用することができます。

アドバンテージ インテグリティを最初にインストールしたとき、デフォルトで次の 3 つのグループを使用できます。

1. **システム マネージャー**: このグループには、TA システム マネージャーへのアクセス権のみがあり、システムの他のモジュール（装置やデータなど）へのアクセス権はありません。
2. **TA サービス**: このグループは、TA サービス部で使用し、必要に応じて装置のメンテナンスを行います。
3. **オペレータ**: このグループを使うと、データ分析および装置モジュールにアクセスことができますが、オペレータ グループを使用する前に TA システム マネージャーが権限リストを定義する必要があります。詳細は 24 ページを参照してください。

システム マネージャーおよび TA サービス グループは、他のグループと組み合わせで割り当ててすることはできません。

次の手順に従って、グループをセットアップします。

1. TA システム マネージャーにログインします。
2. 左側のウィンドウにある  アイコンをクリックしてグループを選択します。次のページにあるように、[グループ マネージャー / 一般] ページが表示されます。
3. [新規] ボタンをクリックします。

4. 作成するグループの名前を入力します。
5. [ステータス] ドロップダウン リストから [有効] を選択します。(グループが不要になった際、この機能を使っていつでもグループを無効にすることができます。)
6. [説明] フィールドに、グループやその機能に関する情報を入力します。
7. [適用] ボタンをクリックして、新しいグループを追加します。(新しいグループを作成している間に、[リロード] ボタンを押すと操作を取り消すことができます。)
8. ステップ 3 ～ 7 を繰り返して、必要なグループを追加します。


グループのセットアップが完了すると、グループ マネージャーまたはユーザー マネージャーのいずれかで、それらのグループをユーザ アカウントに割り当てることができます。

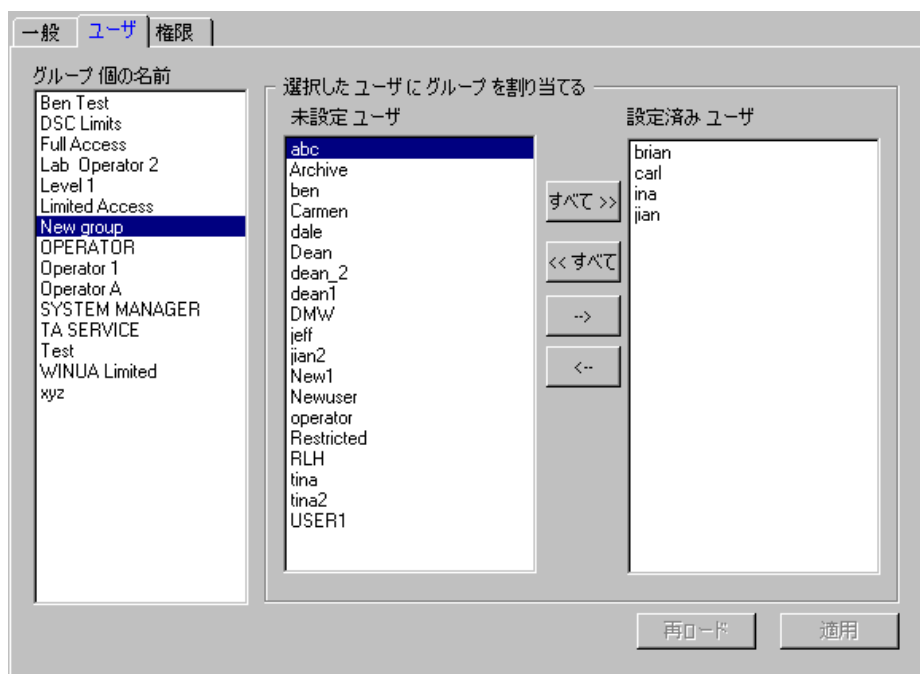
- ユーザ グループを最初にセットアップする際は、グループ マネージャーを使用してください。複数のユーザに一度に割り当てることができます。(詳細は 24 ページを参照)
- ユーザ マネージャーを使って、グループを各ユーザ アカウントに割り当てます。(詳細は 25 ページを参照)



グループを定義したら、グループに権限を割り当てることができます。詳細は、26 ページの「権限の割り当て」を参照してください。

1 つのグループに複数のユーザを割り当てる


システム マネージャーは、次の手順に従って、各グループに 1 人以上のユーザを割り当てることができます。

1. 左側のウィンドウにある  アイコンをクリックして、[グループ マネージャー] を選択します。
2. [ユーザ] ページをクリックします。次のように表示されます。




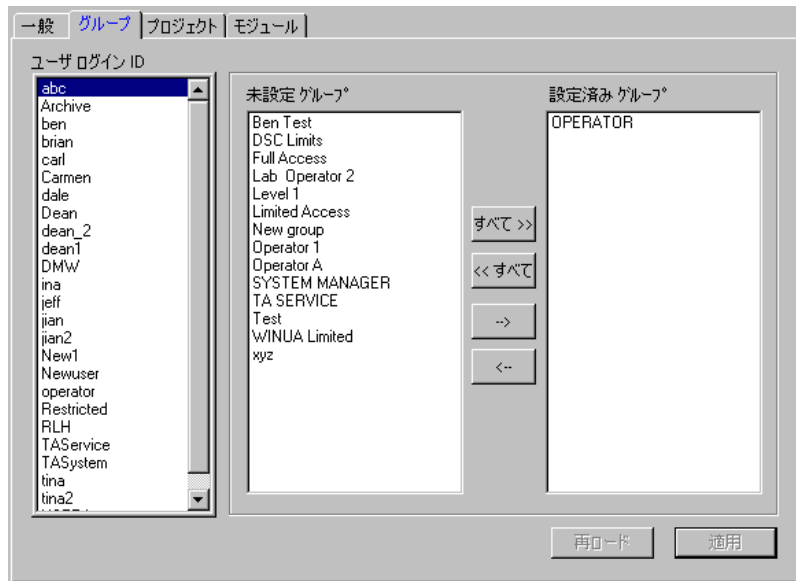
3. リストから [グループ名] を選択して、グループにユーザを割り当て、[未割り当てユーザ] から目的のユーザを 1 人以上選択し、 ボタンをクリックしてこれらのユーザを [割り当て済みユーザ] リストに移動します。または、 ボタンを使ってすべてのユーザを指定のグループに割り当てることもできます。
4. [適用] をクリックし、変更内容を保存します。



1つのグループを1人のユーザに割り当てる

メモ: 1つのグループに複数のユーザを割り当てている場合、グループ マネージャー  にアクセスして、[ユーザ] ページを選択します。

システム マネージャーは、次の手順に従って、1つのユーザ アカウントに1つ以上のグループを割り当てることができます。

1. [ユーザ アカウント] アイコン  をクリックし、ユーザ アカウント マネージャーを開きます。
2. [一般] ページを選択します。次のように表示されます。



3. リストから [ユーザ ID] を選択して、ユーザ アカウントにグループを割り当て、[未割り当てグループ] リストから目的のグループを選択し、 ボタンをクリックしてそれらのグループを [割り当て済みグループ] リストに移動します。
または、 ボタンを使ってすべてのグループを指定のユーザ アカウントに割り当てることもできます。各ユーザは、最低でも「オペレータ」グループに割り当てる必要がある点に注意してください。システム マネージャーおよび TA サービスグループは、他のグループと組み合わせて割り当てることはできません。
4. [適用] ボタンをクリックします。

権限を割り当てる


グループに割り当てた各ユーザは、グループの権限リストに定義されているアクションのみに制限されます。権限は、装置別（たとえば、0100-0123）に定義することも、装置の種類別（たとえば、すべて DSC またはすべての AR）に割り当てることもできます。また、1 つのグループはモジュールリストのすべてのアイテムに権限を定義します。権限がそれぞれのアイテムに定義されていない場合、そのアイテムには権限が与えられません。

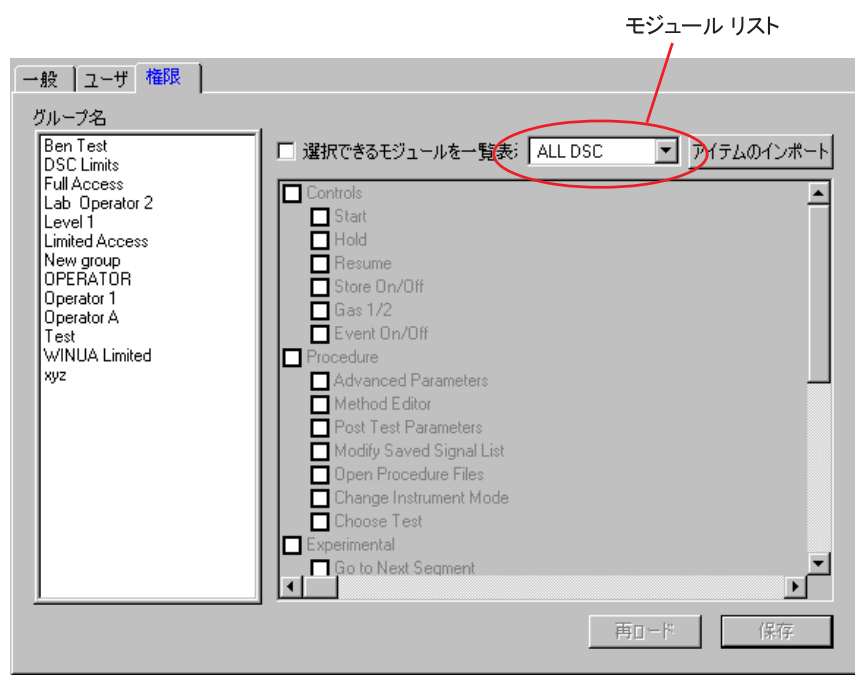
権限は、グループマネージャーか、またはモジュールマネージャーを使って設定することができます。いずれのオプションにも同じ情報が表示されますが、アイテムは互いに異なる関係で表示されます。

1. グループマネージャーを使って、グループ別に権限を定義します。27 ページの「グループに権限を割り当てる」を参照してください。
2. モジュールマネージャーを使って、各モジュールのコントロール別に（権限リスト）グループを割り当てます。29 ページの「権限にグループを割り当てる」を参照してください。

1 つのグループに権限を割り当てる

システム マネージャーは、次の手順に従って、各グループに権限を割り当てることができます。

1. TA システム マネージャーにログインします。
2. 左側のウィンドウにある  アイコンをクリックして、[グループ マネージャー] を選択します。
3. [権限] ページを選択します。図のようにウィンドウが表示されます。



4. [グループ名] リストから目的のグループを選択します。
5. 特定のモジュール別 (たとえば、0100-0123、0500-0050) ではなくモジュールの種類 (たとえば、DSC、TGA、AR) で、このグループに権限を割り当てる場合、[すべてのモジュールを表示] ボックスをオフにします。

6. ドロップダウンリストからモジュールを選択します。(この例では、すべての DSC に対して、指定したグループの同じ権限群が与えられています。)
7. リストのコントロール アイテムで、このグループのメンバーに同じアクセス権があることを確認します。選択していないアイテムは、そのグループで制限されます (アクセス不可)。
8. [保存] をクリックし、選択内容を保存します。
9. ドロップダウンリストの各モジュールに対して、ステップ 6 ～ 8 を繰り返します。(たとえば、DSC、TGA、AR、データ分析といった順番でセットアップすることができます。)


メモ: モジュールマネージャーを使って、モジュールごとの権限リストを表示することができます。29 ページを参照してください。

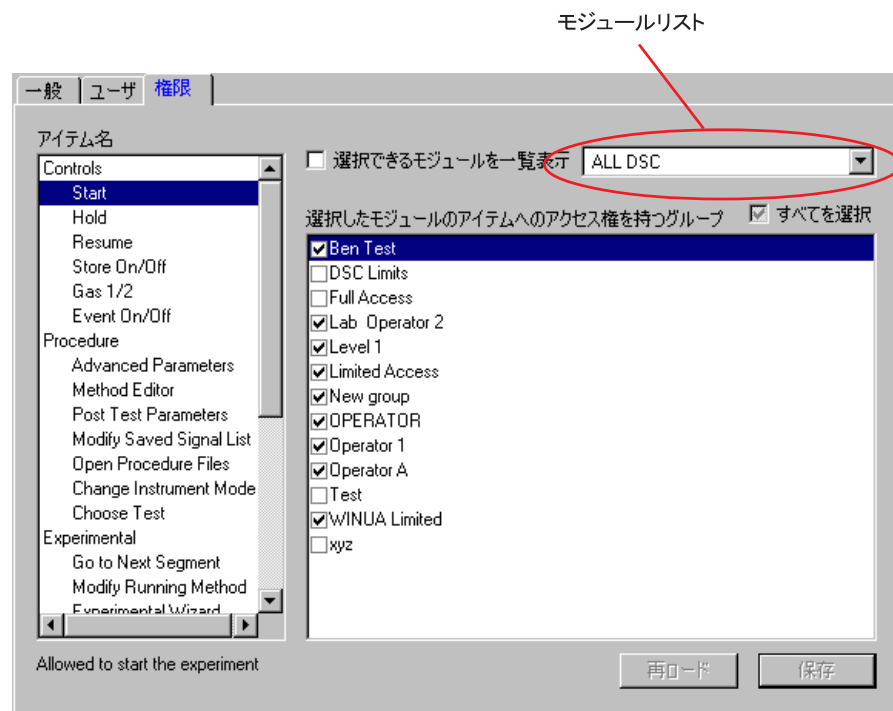
10. ステップ 3 ～ 8 を繰り返して、他のグループに権限を与えます。

メモ: [アイテムのインポート] ボタンをクリックして、各システムモジュールタイプの権限リストを作成するためのスクリプトを更新することができます。このオプションは、新しいバージョンの装置ソフトウェアをインストールする場合に使用します。

権限にグループを割り当てる

システム マネージャーは、次の手順に従って、各コントロール (権限) を 1 つ以上のグループに割り当てることができます。


1. TA システム マネージャーにログインします。
2. 左側のウィンドウにある  アイコンをクリックして、[モジュールマネージャー] を選択します。
3. [権限] ページを開きます。図のようにウィンドウが表示されます。




4. 特定のモジュール別 (たとえば、0100-0123、0500-0050) ではなくモジュールの種類 (たとえば、DSC、TGA、AR) で、このグループに権限を割り当てる場合、[すべてのモジュールを表示] ボックスをオフにします。
5. ドロップダウンリストからモジュールを選択します。(この例では、すべての DSC が選択されています。)

6. [アイテム名] リストから、リストの最初のコントロール アイテムを選択します。(例の [コントロール/スタート] など。)
7. 左側のウィンドウに表示されているグループリストを使って、選択したモジュールで、そのコントロールへのアクセス権を与えるグループをオンにします。選択されていない(左側が空欄)グループは、そのアイテムにアクセスできません。(または、[すべて選択] をオンにして、すべてのグループを選択したコントロールに割り当てることも、[すべて選択] をオフにして、選択したコントロールに指定したすべてのグループの割り当てを解除することもできます。))
8. コントロール リストの各アイテムに対して、ステップ 5 ～ 7 を繰り返します。
9. [保存] をクリックし、選択内容を保存します。
10. ステップ 4 ～ 9 を繰り返して、[モジュール] ドロップダウン リストの各アイテムにアクセス権を与えます。たとえば、特定のモジュール アイテム (TGA、DSC、AR) にアクセス権を設定した後に、WinUA (ユニバーサル アナリシス) または RADATA (レオロジー データ分析) にアクセス権を設定することができます。

システムプロジェクトを定義する

プロジェクトは、一連のデータ(またはテスト)を分類する方法として定義されます。プロジェクト マネージャー  を使って、プロジェクトをセットアップします。新しいプロジェクトのセットアップは、TA システム マネージャーのみが行うことができます。

1. TA システム マネージャーにログインします。
2. 左側のウィンドウにある  アイコンをクリックしてプロジェクトを選択します。図のように、[プロジェクト マネージャー/一般] ページが表示されます。

システム プロジェクト マネージャでは、各ユーザのプロジェクトが作成および割り当てられます。

一般	ユーザ
<p>プロジェクト名</p> <ul style="list-style-type: none">123new projectNew TestProcert CFRProject AProject BProject CProject DSERVICE PROJECTTA PROJECT	<p>プロジェクト情報</p> <p>名前 <input type="text" value="Project A"/></p> <p>会社名 <input type="text" value="TA Instruments"/></p> <p>部署名 <input type="text" value="R & D"/></p> <p>ステータス <input type="text" value="Active"/></p> <p>説明 <input type="text"/></p> <p>プロジェクト ID <input type="text" value="1022236799"/></p>

3. [新規] ボタンをクリックします。


4. 任意の**プロジェクト**名を入力します。半角 50 文字 (全角 25 文字) まで入力できます。
5. **企業名**をリストから選択するか、または直接入力します。入力した企業名はリストに追加されます。半角 50 文字 (全角 25 文字) まで入力できます。
6. **部署名**をリストから選択するか、または直接入力します。入力した部署名はリストに追加されます。半角 50 文字 (全角 25 文字) まで入力できます。
7. **[ステータス]** ドロップダウン リストから **[有効]** を選択します。(この機能を使って、不要になったプロジェクトを無効にし、新たに作成されたデータに割り当てられないようにします。)
8. **[説明]** フィールドに、新しいプロジェクトに関する情報を適宜入力します。半角 256 文字 (全角 128 文字) まで入力できます。
9. **[適用]** をクリックし、新しいプロジェクトを追加します。(新しいプロジェクトを作成している間に、**[リロード]** ボタンを押すと操作を取り消すことができます。)
10. ステップ 3 ～ 9 を繰り返して、必要なプロジェクトを追加します。

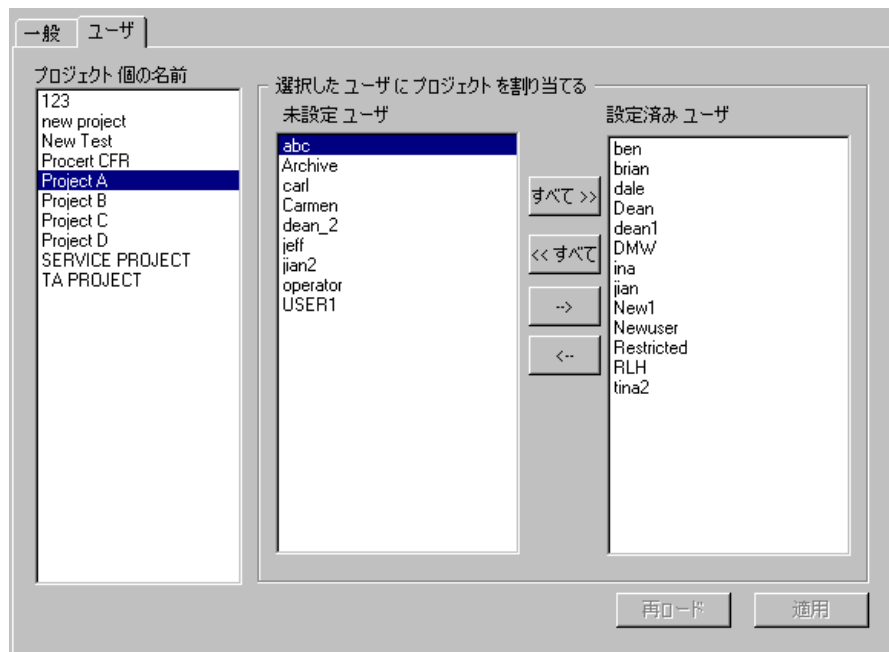
プロジェクトのセットアップが完了すると、プロジェクト マネージャーまたはユーザー マネージャーのいずれかで、それらのプロジェクトをユーザ アカウントに割り当てることができます。



- プロジェクトを最初にセットアップする際は、**プロジェクトマネージャー**を使用してください。複数のユーザに一度に割り当てることができます。(詳細は 33 ページを参照)
- **ユーザマネージャー**を使って、プロジェクトを各ユーザ アカウントに割り当てます (詳細は 34 ページを参照)。

プロジェクトに複数のユーザを割り当てる

システム マネージャーは、次の手順に従って、各プロジェクトに 複数のユーザを割り当てることができます。

1. TA システム マネージャーにログインします。
2. 左側のウィンドウにある  アイコンをクリックして、[プロジェクト マネージャー] を選択します。
3. [ユーザ] ページを開きます。次のように表示されます。




4. リストから [プロジェクト名] を選択して、プロジェクトにユーザを割り当て、[未割り当てユーザ] から目的のユーザを 1 人以上選択し、 ボタンをクリックしてそれらのユーザを [割り当て済みユーザ] リストに移動します。または、 ボタンを使ってすべてのユーザを指定のプロジェクトに割り当てることもできます。
5. [適用] をクリックし、変更内容を保存します。

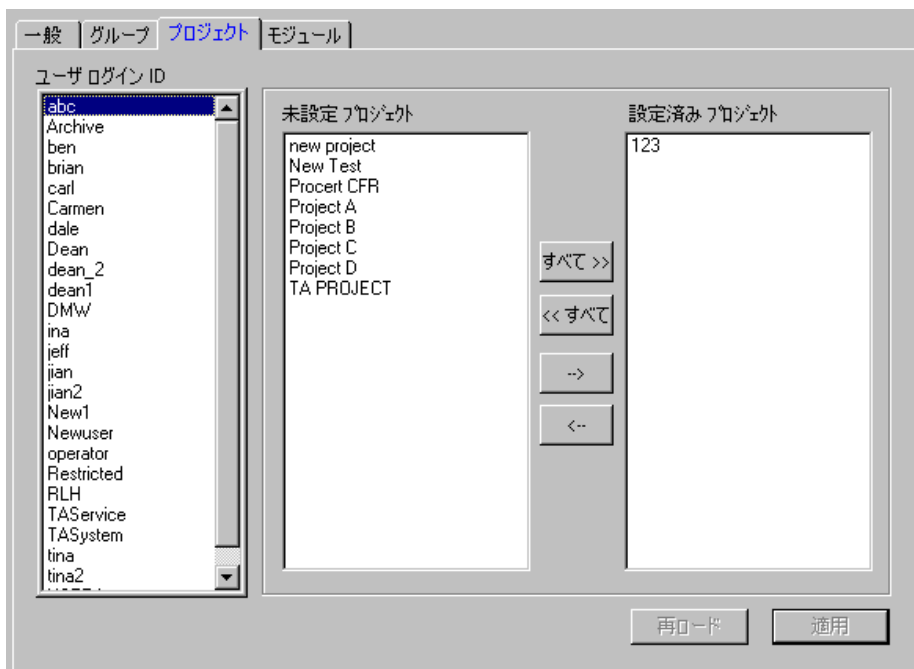
プロジェクトを1人のユーザに割り当てる



メモ: 1つのプロジェクトに複数のユーザを割り当てている場合、プ

ロジェクト マネージャー  にアクセスして、[ユーザ] ページを
選択します。

システム マネージャーは、次の手順に従って、各ユーザ アカウントに1つ以上のプロジェクトを割り当てることができます。

1. [ユーザアカウント] アイコン  をクリックして、ユーザアカウントマネージャーを開きます。
2. [プロジェクト] ページを選択します。次のように表示されます。




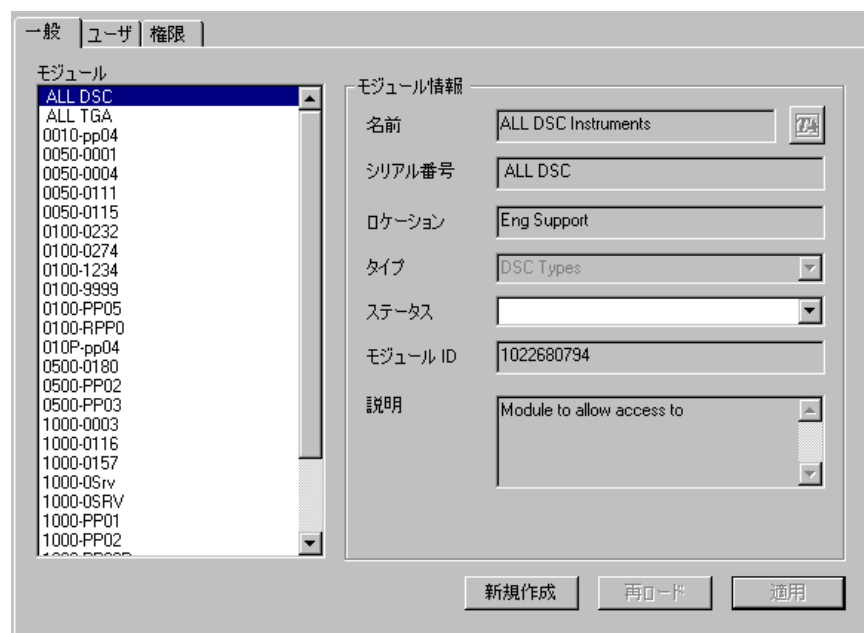
3. リストから [ユーザ ID] を選択して、ユーザ アカウントにプロジェクトを割り当て、[未割り当てプロジェクト] リストから目的のプロジェクトを選択し、 ボタンをクリックしてそれらのプロジェクトを [割り当て済みプロジェクト] リストに移動します。または、 ボタンを使ってすべてのプロジェクトを指定のユーザ アカウントに割り当てることもできます。
4. [適用] をクリックし、変更内容を保存します。

システムモジュールを定義する

システムモジュールには、すべての装置およびデータ分析プログラムが含まれます。サーマルアドバンテージ Q シリーズ™において、これらのコンポーネントは DSC および TGA 装置、およびユニバーサル アナリシスです。レオロジー アドバンテージにおいて、これらのコンポーネントは AR レオメーターおよびレオロジー アドバンテージ™ データ分析です。DSC、TGA および AR 装置は、それぞれ固有のシリアル番号（たとえば、0100 - 0123、0500 - 0050）で示します。装置のアクセス権は、装置のシリアル番号別、または装置の種類別（たとえば、すべての DSC、TGA、または AR）に与えることができます。

次のように、TA システム マネージャーにアクセスして、コンポーネントがシステム マネージャー プログラムにインポートされていることを確認します。

1. TA システム マネージャーにログインします。
2. 左側のウィンドウにある  アイコンをクリックしてモジュールを選択します。図のように、[モジュールマネージャー/一般] ページが表示されます。



インテグリティのインストール時に、すべてのモジュール（装置およびデータ分析の両方）がシステムにインポートされます。システムのすべての装置がリストにあることを確認します。リストにない装置がある場合、ステップ 3 に進みます。


3. **[新規]** ボタンをクリックします。
4. TA ボタンをクリックして、このコントローラから表示可能なインテグリティのライセンスがある装置のリストを表示します。(つまり、この機能を使用するには、アドバンテージQ シリーズ™ がインストールされているコントローラから操作を行う必要があります。) 任意の装置を選択して、**[OK]** をクリックします。この装置のモジュールと情報が自動的にインポートされます。
5. **[ステータス]** ドロップダウン リストから **[有効]** を選択します。(この機能を使って、不要になったプロジェクトを無効にし、新たに作成されたデータに割り当てられないようにします。)
6. **[説明]** フィールドに、新しいモジュールに関する情報を適宜入力します。半角 256 文字 (全角 128 文字) まで入力できます。
7. **[適用]** をクリックし、新しいモジュールを追加します。(新しいモジュールを作成している間に、**[リロード]** ボタンを押すと操作を取り消すことができます。)
8. ステップ 3 ~ 7 を繰り返して、必要なモジュールを追加します。

モジュールの確認とセットアップが完了すると、モジュール マネージャーまたはユーザー マネージャーのいずれかで、それらのモジュールをユーザ アカウントに割り当てることができます。



9. モジュールを最初にセットアップする際は、**モジュールマネージャー**を使用してください。複数のユーザに一度に割り当てることができます。(詳細は 37 ページを参照)
10. **ユーザマネージャー**を使って、モジュールを各ユーザ アカウントに割り当てます (詳細は 38 ページを参照)。

1 つのモジュールに複数のユーザを割り当てる


システム マネージャーは、次の手順に従って、1 つのプロジェクトに 1 人以上のユーザを割り当てることができます。

1. TA システム マネージャーにログインします。
2. 左側のウィンドウにある  アイコンをクリックして、[モジュールマネージャー] を選択します。
3. [ユーザ] ページを開きます。次のように表示されます。




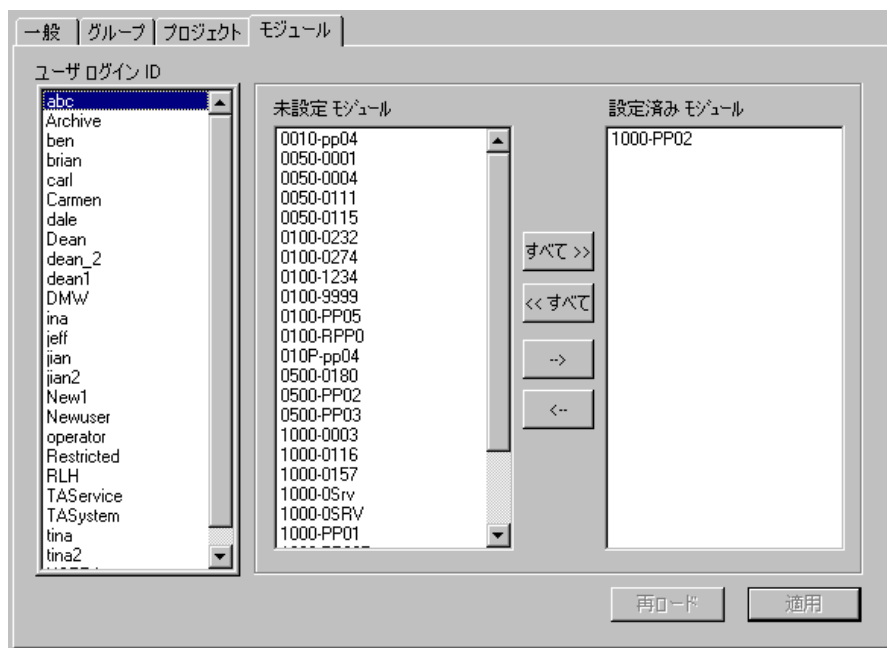
4. リストから [モジュール名] を選択して、モジュールにユーザを割り当て、[未割り当てユーザ] から目的のユーザを 1 人以上選択し、 ボタンをクリックしてそれらのユーザを [割り当て済みユーザ] リストに移動します。または、 ボタンを使ってすべてのユーザを指定のモジュールに割り当てることもできます。
5. [適用] をクリックし、変更内容を保存します。



1 人のユーザにモジュールを割り当てる

メモ: 1つのモジュールに複数のユーザを割り当てている場合、モジュール マネージャー  にアクセスして、[ユーザ] ページを選択します。


システム マネージャーは、次の手順に従って、1つのユーザ アカウントに1つ以上のモジュールを割り当てることができます。

1. [ユーザアカウント] アイコン  をクリックして、ユーザアカウントマネージャーを開きます。
2. [モジュール] ページを選択します。次のように表示されます。



3. リストから [ユーザ ID] を選択して、新規ユーザ アカウントにモジュールを割り当て、[未割り当てモジュール] リストから目的のモジュールを選択し、 ボタンをクリックしてそれらのプロジェクトを [割り当て済みモジュール] リストに移動します。または、 ボタンを使ってすべてのモジュールを指定のユーザ アカウントに割り当てることもできます。
4. [適用] をクリックし、変更内容を保存します。

システム設定オプション

[システム設定] アイコンを選択して、、システム設定とイベント ログにアクセスします。サーバーやデータベース情報など、設定の一部は、システムのインストール時に作成されました。

サーバーおよびデータベース情報


図のように、[一般] ページに表示されるサーバーおよびデータベース情報は、データベースのセットアップや作成時に取得されています。

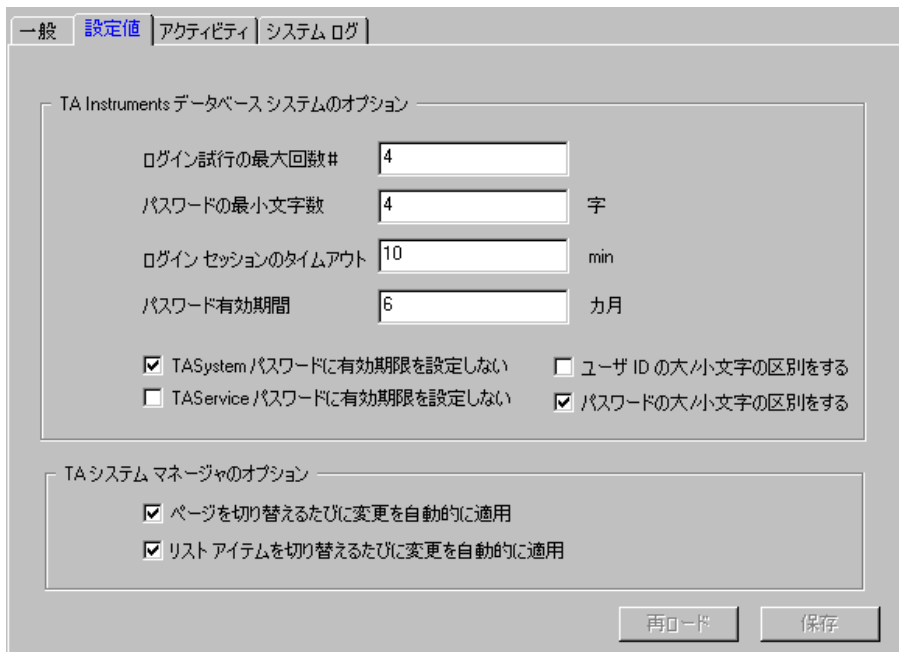
システム設定値マネージャでは、TA システム オプションとともに、サーバーとデータベースの情報、現在のユーザ、システム ログ アクティビティが表示されます。

一般	設定値	アクティビティ	システム ログ
サーバー情報			
名前:	TA-ORCL9		
製品名:	Oracle9i		
製品バージョン:	9.0.1.1.1		
インストール日:	2002-05-08 13:52:08		
プロバイダー:	ORACLEDB.ORACLE		
データベース情報			
データベース名:	TAEXPDB		
作成日:	2002-08-12 10:53:11		

TA システムオプションを変更する

システム設定マネージャーには、パスワードのログイン ポリシーや、このプログラムにおける変更の保存方法に関するオプションのリストが表示されます。

1. TA システム マネージャーにログインします。
2. 左側のウィンドウにある [システム設定] アイコン  をクリックします。
3. [設定] ページを選択します。図のように、[システム設定マネージャー/設定] ページが表示されます。



以下は、各パラメータの説明です。

- **ログインの最大試行回数:** ユーザに許可する、システムへのログイン試行回数。その回数以内にログインできないと、システムへのアクセス自体が拒否されます (無効)。システムがアクセス拒否になった場合、システム マネージャーはアカウントを再び有効にする必要があります。デフォルトの回数は 3 回です。

- **パスワードの最小の長さ:**パスワードの定義時にユーザが入力しなければならないパスワードの最小文字数。ユーザアカウントの新規作成時、または次回ユーザがパスワードを変更する必要があるときに、この設定が適用されます。最大で半角20文字まで設定することができます。デフォルトの設定は4文字です。
- **ログインセッションのタイムアウト:**ユーザが強制ログアウトになるまでの無操作時間(たとえば、ユーザがプログラムを一切操作しない場合)。デフォルトの時間は15分です。
- **パスワードの有効期限:**ユーザアカウントの作成日を基準とした、パスワードのデフォルトの有効期限。デフォルトの有効期限は、3か月です。この期限は、ユーザアカウント情報で変更することができます。
- **アカウントの有効期限なし:**
 - TAシステムアカウントにパスワードの有効期限を適用したくない場合、[TAシステムアカウントパスワードの有効期限なし] ボックスをオンにします。
 - TAサービスアカウントにパスワードの有効期限を適用したくない場合、[TAサービスアカウントパスワードの有効期限なし] ボックスをオンにします。必要に応じて、このオプションをオンにしてTAサービス担当者が簡単にアクセスできるようにすることを推奨します。
- **大文字と小文字を区別:**
 - ユーザIDの大文字と小文字を区別する場合は、[ユーザIDの大文字と小文字を区別する] ボックスをオンにします。
 - パスワードの大文字と小文字を区別する場合は、[パスワードの大文字と小文字を区別する]ボックスをオンにします。
- **TAシステム マネージャー オプション:**これらのオプションでは、TAシステム マネージャー内で変更を適用する方法を定義します。(これらのオプションに加えられた変更はただちに有効になり、[適用]をクリックする必要はありません。)
 - 他のページに切り替えたときに変更をただちに反映させたい場合、[ページを切り替えたときに変更を自動的に適用する] をオンにします ([適用] ボタンをクリックする必要はありません)。

- ページ左側のリストにある他のアイテムに切り替えたときに変更をただちに反映させたい場合、[リストアイテムを切り替えたときに変更を自動的に適用する] をオンにします ([適用] ボタンをクリックする必要はありません)。

4. 必要なオプションをオンにして、[保存] ボタンをクリックします。

メモ:[リロード] ボタンをクリックすると、システムのデフォルト設定を保存されている状態に戻すことができます。

活動およびシステムログ

TA システム マネージャーのシステム設定オプションにアクセスして、活動およびシステムログ情報を表示することができます。

図の右側のように、[活動] ページをクリックして、活動ログを表示します。これは表示専用のレポートで、このシステムのモジュールにログインしているユーザの概要が表示されます。

一般 設定値 アクティビティ システム ログ						
ユーザ	ワークステー...	オブジェクト	ステータス	ログインタイム	ヒット	前回のアクセス
System...	WYLIE-W2K	TAISM	Sleeping...	2003-07-31 14:21:43	165	2003-07-31 14:36:47

図の右側のように、[システム ログ] ページをクリックして、システム ログを表示します。これは、表示専用のレポートで、TA システム マネージャー (TAISM) プログラムに関するチェック イベントが記録されています。このレポートには、ログイン、ログアウト、ユーザ、プロジェクト、グループの変更などのアイテムが表示されます。

一般 設定値 アクティビティ システム ログ			
ユーザ	タイプ	ログ タイム	説明
TASyst...	ログイン	2003-07-31 14:21:43	User TASystem (System Manager) has Logged In TAISM from ...
ben	パスク...	2003-07-14 12:17:04	Password for user ben (Ben Crowe) has been successfully cha...

リフレッシュ プロパティ << 前月 2003-07-01 次月 >>

チェックイベントの表示プロパティ

システム ログに含まれる各チェック イベントは、特定の TA システム グループ アカウントに関連付けられており、種類に従って分類され、作成日と一緒に記録されます。[システム設定 マネージャー/システム ログ] ウィンドウの [プロパティ] ボタンをクリックして、この情報を表示します。[チェック イベント プロパティ] ウィンドウ (図の右側参照) が表示されます。

↑

↓

ユーザ ID: TASystem

イベント タイプ: ログイン

時刻: 2003-07-31 14:21:43

説明
User TASystem (System Manager) has Logged In TAISM from workstation WYLIE-W2K. TAISM Version 1. 6. 0. 223.

閉じる

↑ および ↓ ボタンをクリックしてシステム ログ イベントを前後に移動し、各イベントのプロパティを表示することができます。

第 2 章

インテグリティ™ システムを使用する

概要

インテグリティオプションを搭載した、TA Instruments アドバンテージ Q™ シリーズの装置制御およびユニバーサルアナリシスプログラムは、非インテグリティ装置と機能上は同じです。ここでは、それらのコンポーネントの違いについて解説します。

全般的な変更

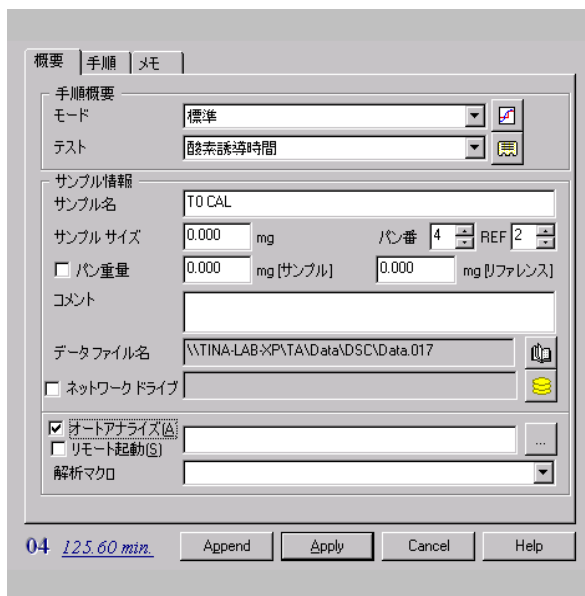
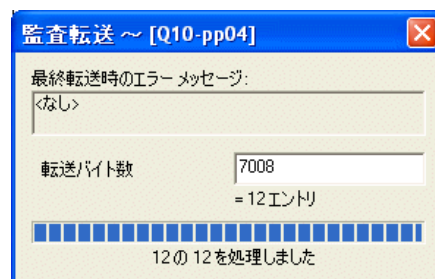
1. ライセンスで保護されている装置およびデータ分析ソフトウェアにアクセスするには、ログインが必要です。TA システム マネージャーでは、ユーザ アカウントの作成、装置やデータ分析へのアクセス権 (モジュール) の割り当て、グループおよび各グループの権限の割り当てを行います。ログインおよびシステム マネージャーの役割については、第 1 章に説明があります。
2. データの保存と取り出しには、セキュアな Oracle® データベースを使用します。
3. コンピュータが自動作成した、タイムスタンプの押された監査査証は、システムの組み込まれています。

インテグリティのライセンスで保護された装置を使用する

アドバンテージインテグリティライセンスを使って装置をセットアップすると、装置はアドバンテージインテグリティシステムの一部になります。アクセスは制御され、データは Oracle® データベースに格納されます。そして、監査査証にはイベントが記録されます。装置にログインした後のインテグリティ装置の基本操作は、較正、試験のセットアップ、開始ラン用の非インテグリティ (標準) の装置と同じです。

以下に、いくつかの相違点を挙げます。

- **監査査証転送 (熱分析のみに該当):** 装置の制御ウィンドウを初めて開いたときに、転送する装置の監査査証メッセージがある場合に、[監査査証転送ステータス] ウィンドウ (図参照) が表示されます。監査査証の転送中、インストルメントコントロール ウィンドウを閉じないでください。インストルメントコントロール ウィンドウを閉じると、このウィンドウも表示される場合があります。
- **SUID 番号 (熱分析のみに該当):** データストレージパスを定義する代わりに、データベースによって、元の初期データレコードに SUID 番号が自動的に割り当てられます。この番号は、**試験ビューの概要ページ**で確認できます (図の右側)。



インテグリティライセンスの概要ページ
インストルメントコントロール

メモ: データベース内に保存されている各レコードにも、レコード ID 番号が割り当てられ、作成し、保存したイメージに表示されます。

- **プロジェクト名:** 試験はそれぞれ、プロジェクトに割り当てられます。プロジェクトを割り当てることで、データベースのデータを分類し、検索を容易にするためにデータベースのレコードをソートする手段を提供します。使用可能なプロジェクトは、TA システム マネージャー (30 ページ参照) によって割り当てられたプロジェクトです。また、TA システム マネージャーには、このシステムで使用可能なプロジェクトを定義する義務があります。

次のステップに従って、プロジェクトをランに割り当てます。

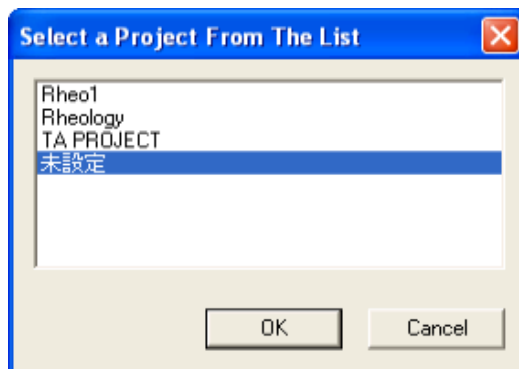
1. [プロジェクト名] フィールドの右側にある



ボタンをクリックし

ます。ウィンドウが次のように表示されます。

2. 表示されたプロジェクトから 1 つを選択して、[OK] をクリックします。



- **オペレータ:** [メモ] ページの [オペレータ] フィールドには、ランを作成しているユーザのユーザ ID が自動的に表示されます。この ID は変更できません。オペレータが複数入る場合に適用される規則については、49 ページのセクション「1 つの装置を複数のユーザで操作する」を参照してください。
- **制限されているか、または使用不可能な機能:** アドバンテージ インテグリティシステムで、TA システム マネージャーは、システムの各モジュール内に権限 (たとえば、アクションの制限) を定義することができます (26 ページ参照)。

インスツルメントコントロールプログラム (熱分析およびレオロジー) 内で、制御可能な権限のリストには、校正パラメータや分析、ランの修正といった項目が含まれます。したがって、一般的な機能は、割り当てられているアクセスグループによって使用できない場合があります。インスツルメントコントロールの権限リストについては、担当の TA システム マネージャーに問い合わせてください。

- 使用不可能な装置の制御機能:

熱分析:Q シリーズ™ インストルメントコントロールの標準バージョンで使用できる一部の機能は、インテグリティシステムにログインしているときに使用できません。使用できない機能は次のとおりです。

- ランの拒否
- アーカイブの有効化
- オートアナリシス

- **レオロジー:**レオロジー アドバンテージインストルメント コントロールおよびデータ分析の標準バージョンで使用できる一部の機能は、インテグリティシステムにログインしているときに使用できません。使用できない機能は次のとおりです。

- メモのロード/保存、オプションのロード/保存
- 装置の新規作成と選択
- ナビゲータ
- ランが有効なデータ分析に切り替える

- **熱分析 Q シリーズのメソッド、手順およびシーケンス ファイル:**これらのファイルは、データベースに保存されず、システムのファイルにオーディットされた変更でもありません。これらのファイルは、オペレータが指定したファイルに引き続き保存されます。ただし、これらの種類のファイルを開いたり、保存したりすると、監査査証に記録されます。また、保存されているデータレコードには、保存データレコードのパラメータブロック内の試験条件（たとえば、メソッド、校正、装置パラメータ）の詳細が含まれます。この情報は、**[表示/パラメータブロック]**を選択して、ユニバーサル アナリシス プログラムに表示することができます。

- **熱分析 Q シリーズの有効な試験:**現在進行中の試験は、ユニバーサル アナリシスで表示できますが、試験が完了するまで試験結果を保存できません（たとえば、分析の保存、pdf の作成）。

- **レオロジーの有効な試験:**現在進行中の試験は、試験が完了し、保存されるまで、レオロジー アドバンテージ データ分析で表示することができます。

複数ユーザの処理 単一装置の場合

1 つの装置に複数のユーザがアクセスしている場合、使用中のインテグリティ™ プログラムの種類によって次の規則が適用されます。

熱分析インテグリティを使用している場合：

1. アクセス権がランに関連するプロジェクトの場合のみ、他のユーザのランを変更することができます。そのランの「所有権を取る」かどうかを尋ねるメッセージが表示されます。[はい]を選択して所有権を取得します。[メモ] ページに、名前が「オペレータ」として割り当てられます。[いいえ]を選択すると、ランの所有権を拒否し、[追加] ボタンを教えて新しいランを作成することができます。
2. ランに割り当てられているプロジェクトへのアクセス権がなくても、他のユーザのランを開始することができます。その場合、ユーザ ID がデータレコードのパラメータ ブロックに [ラン オペレータ] として記録され、ユニバーサル アナリシス プログラムの [表示/パラメータブロック] 機能を使って表示できます。オペレータ名は、元のオーナーのユーザ ID のままになります。
3. 割り当てられているプロジェクトとは無関係に、ランを削除できます。
4. 割り当てられているランのプロジェクトへのアクセス権がない場合、「アクセスは拒否されました」というメッセージが表示されます。この場合、[追加] ボタンを選択して新しいランを作成する必要があります。
5. 保存されているシーケンスをロードすると、現在ログインしているユーザが、すべてのランに対して「オペレータ」になります。現在のランに指定しているプロジェクトは、シーケンスのすべてのランに適用されます。ユーザにそのプロジェクトへのアクセス権 (権限) がない場合、各ランのプロジェクトは「未割り当て」に設定されます。

レオロジーインテグリティを使用している場合：


6. ランに関連するプロジェクトへのアクセス権が割り当てられている場合のみ、他のユーザのランを変更することができます。ログオンすると、そのランの所有権を取るかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。[はい]を選択して所有権を取得します。[メモ] ページで名前が「オペレータ」として割り当てられ、所有している権限に含まれるアクションを実行することができます。所有権を取得しない場合、ランが続行し、ログオンすることはできません。

インテグリティのライセンスで保護されたユニバーサルアナリシスを使用する

ユニバーサルアナリシスでは、インテグリティデータベースシステムに保存されている分析データ、および従来のデータファイル（履歴データ）に保存されているデータにアクセスして、分析することができますが、両方を同時に処理することはできません。インテグリティシステムにログインした場合、データベースレコードのみにアクセスできます。ログインやログアウトなど、データベースにログイン中に実行したすべてのアクションに対して、セキュアな監査査証が作成されます。（ディスクに保存されている）履歴データの表示中、監査査証はありません。

インテグリティのライセンスを持つユニバーサルアナリシスプログラムで使用できるほとんどの機能は、非インテグリティの（標準の）製品の機能と同じです。


以下は、プログラム間の相違点です。

1. **ログイン:** インテグリティデータベースのレコードにアクセスする前に、有効なユーザ名とパスワードを使ってデータベースにログインする必要があります（詳細は 16 ページを参照）。ログインする前に、開いている従来のデータファイルをすべて閉じてください。
2. **ファイルを開く:** データベースにログインした後、試験のデータの場所を特定する必要があります。[ファイル/開く] を選択します。データベースビューワが表示されます。（データベースビューワの詳細は 55 ページを参照してください。）データベースビューワの検索機能とソート機能を使って、目的のレコードの場所を特定します。ビューワに表示されるレコードは、アクセス権のあるプロジェクトに割り当てられたレコードのみです。 ボタンをクリックするか、[ファイル/開く] を選択すると、ユニバーサルアナリシスにデータファイルが開きます。データベースビューワと監査査証の使用方法については、この章の後半に説明があります。
3. **制限されているか、または使用不可能な機能:** システム管理者は、TA システムマネージャープログラムを使って、インテグリティシステムの各モジュール内の権限（アクセス可能な機能）を定義できます（26 ページ参照）。ユニバーサルアナリシスでは、制御可能な機能のリストに、プログラムのほとんどのメニューアイテムが含まれます。使用可能な機能は、割り当てられているアクセスグループによって異なります。

標準モードで使用可能な機能には、インテグリティデータベースにログインしている間に使用できないものもあります。使用できない機能は次のとおりです。

- レコードの自動再開（ファイル/再開）
 - 保存されている分析情報の削除（ファイル/保存されている分析情報の削除）
 - 初期データ パラメータの編集（ファイル/パラメータブロックの編集）
 - データの除外（編集/データの除外）
 - データのスプレッドシート ビュー内のセルの編集（編集/変更、切り取り、貼り付け）
 - テキストレポートの編集（表示メニュー）
 - 自動分析キューの作成（マクロ/自動キュー、表示/自動キュー レポート、ログ）
4. **分析ログ:**ユニバーサル アナリシス内で実行された各アクションは、現在開いているデータレコードの分析ログに記録されます。分析またはレポートがデータベースに保存されている場合（たとえば、分析の保存や PDF ファイルのエクスポート機能を使って）、関連する分析ログが新しいレコードと一緒にデータベースに保存されます。

レポートの分析ログは、データベースビューを使って直接表示することができます（ファイル/開く）。ビューで目的のレコードを指定し、ツールバーの [詳細]

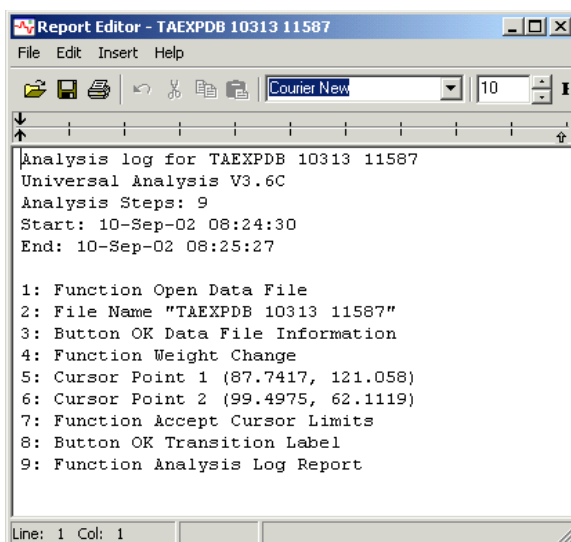
 ボタンをクリックします。可能な場合、図のように、データベースビューの右側のウィンドウに分析ログが表示されます。



データベースビューに表示された分析ログ

また、ユニバーサルアナリシスに保存されている分析レコードを開き、[表示/分析ログ]を選択して、保存されている分析の分析ログを表示することもできます。レポートエディタの右側にウィンドウが表示されます。

5. **結果の保存:** 元の(初期)データファイルで実行された分析を保存するには、[ファイル/分析の保存] か [ファイル/PDF ファイルのエクスポート] 機能を使用します。



保存した分析の分析ログ

- [分析のみ保存] を使うと、現在のデータレコードとは別に作成された分析結果が保存されます。
- [分析とデータを保存] では、分析結果と、元の初期データと同一のコピーが保存されます。
- [PDF ファイルのエクスポート] では、PDF (Portable Document Format) 倦式で分析グラフのコピーが保存されます。

いずれの場合も、新しいデータベースレコードが作成されます。初期(元の)データから作成されたレコードは、元のデータレコードの日付でデータベースに保存されます。実行した機能の詳細が含まれる分析ログは、保存されたレコードに保存されます。インテグリティデータベースレコードは、変更または削除できません。

6. **マクロ(mac)、初期化(ini)およびカスタムレポートテンプレート(uat) ファイル:** これらのファイルは、データベースに保存されません。これらのファイルに加えた変更は、システムではチェックされません。これらのファイルは、オペレータが指定したファイルに保存されます。ただし、これらのファイルを開いたり、保存した場合、監査査証と現在開いているデータベースレコードの分析ログに記録されます。


インテグリティのライセンスで保護されたレオロジーデータ分析を使用する

レオロジー アドバンテージ™では、インテグリティ データベースシステムに保存されている分析データ、および従来のデータ ファイル (履歴データ) に保存されているデータにアクセスし、分析することができます。データベースにログイン中に実行したすべてのアクションに対して、セキュアな監査査証が作成され、専用レポートになります。履歴データにアクセスしている間は監査査証は作成されません。

インテグリティのライセンスを持つレオロジー アドバンテージプログラムで使用できるほとんどの機能は、非インテグリティの (標準の) 製品の機能と同じです。

以下は、プログラム間の相違点です。

1. **ログイン:** インテグリティ データベースのレコードにアクセスする前に、有効なユーザ名とパスワードを使ってデータベースにログインする必要があります (詳細は 16 ページを参照)。[ログイン] ウィンドウで [キャンセル] を選択すると、非インテグリティ版のレオロジー アドバンテージデータ分析が開きます。
2. **ファイルを開く:** データベースにログインした後、試験のデータの場所を特定する必要があります。[ファイル/開く] を選択します。データベース ビューワが表示されます。(データベース ビューワの詳細は 55 ページを参照してください。) データベースビューワの検索機能とソート機能を使って、目的のレコードの場所を特定します。ビューワに表示されるレコードは、アクセス権のあるプロ

ジェクトに割り当てられたレコードのみです。ファイルを開くには、 ボタンをクリックするか、または [ファイル/開く] を選択します。データベース ビューワと監査査証の使用方法については、この章の後半に説明があります。

3. **制限されているか、または使用不可能な機能:** システム管理者は、TA システムマネージャプログラムを使って、インテグリティシステムの各モジュール内の権限 (アクセス可能な機能) を定義できます (26 ページ参照)。レオロジーデータ分析では、制御可能な機能のリストに、プログラムのほとんどのメニューアイテムが含まれます。使用可能な機能は、割り当てられているアクセスグループによって異なります。

標準モードで使用可能な機能には、インテグリティデータベースにログインしている間に使用できないものもあります。使用できない機能は以下のとおりです。

- レオロジー アドバンテージ ナビゲータ
- 初期データに変更を加え、元のファイルを上書きする

- 実行データを分析する
 - 操作を元に戻す/やり直す
4. **分析セッション:**レオロジー アドバンテージ データ分析で実行した各アクションは、分析ログに記録されます。セッションがレポートに記録される場合、関連するログがレポートと一緒にデータベースに保存されます。レポートの分析ログは、データベースビューワで表示できます。
 5. **印刷と記録:**この機能では、固有のレコード ID を付けてレポートのハードコピーを作成し、分析セッションをデータベースに保存します。
 6. **ディスクに保存:**データベースに保存されたデータは、(コピーとして) 取り出すことができ、ディスクに保存できるため、非インテグリティ版のデータ分析ソフトウェアで読み取ることができます。
 7. **同一セッションのデータベースとディスクベースのファイル:**セキュアおよび非セキュアなファイルを同じセッションで開くように設定するための権限がある場合、次の規則が適用されます。
 - ファイル名を表示または印刷する場合、非セキュアソースからのものであることを追加テキストで示します。
 - セッションを保存する場合、ファイルはデータベースに保存されます。非セキュアソースのものであること、およびオーディット ログに重要な情報があることを文字列で示します。
 - 印刷または記録を実行してハードコピーを作成する場合、フッターに、レポートに非セキュア データが含まれることを示す注意書きが含まれます。

データベースビューワを使用する


アドバンテージインテグリティシステムには、セキュアな Oracle データベースが含まれます。使用している熱またはレオロジー インテグリティによって、このデータには、初期(元の) データ、保存されている分析、保存されているセッション、Tzero 較正、保存されている Adobe PDF (Portable Document Format) ファイル、および保存されている BMP (ビットマップ) 画像が含まれます。このデータベースに含まれるデータは、データベースビューワを使って、表示、ソートおよびエクスポートすることができます(下記参照)。



インテグリティライセンスを持つデータ分析プログラムから保存されているレコードを開くには、システムにログインした後、メニューから [ファイル/開く] を選択します。データベースビューワが表示されます。次ページのセクション冒頭の指示に従って、データレコードの場所を特定し、開きます。

ログイン後、メニューから [表示/データベースの試験データ] を選択して、熱分析 Q シリーズ™のインテグリティライセンスを持つインストルメントコントロールプログラムから、データベースビューワを表示することもできます。ただし、ユニバーサルアナリシスプログラム以外からファイルを開くことはできません。


ツリービューでデータを特定する

[データベース] ウィンドウ (前ページ参照) の左側のパネルを使って、ツリービューでデータを特定することができます。目的のレコードが見つかるまで、各アイテムをクリックしてツリーを展開します。ツールバーの  ボタンを使って、アイテムの順番を変更することができます。詳細は、次ページの「ソート順序をカスタマイズする」を参照してください。

左側のウィンドウに表示された項目を使って、リスト右側のように、特定のファイル、ドキュメント、または情報を特定します。

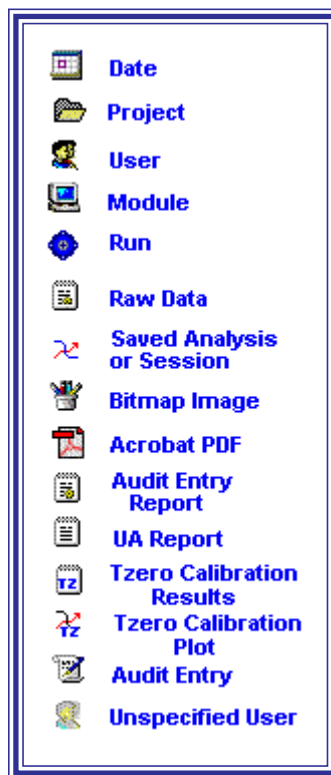
1. 日付、ユーザ、プロジェクト、装置、ラン番号: いずれかのアイコンをクリックすると、該当するレコードが右側のウィンドウに表示されます。例として前のページの図を参照してください。

2. 初期データファイル、Tzero 校正ファイル、テキストファイル (保存されているユニバーサル分析レポート)、保存されている分析セッションファイル: データ ファイル レコードを選択すると、右側のウィンドウにデータファイルのパラメータブロック情報が表示されます。


 ボタンをクリックするか、[ファイル/開く] を選択すると、ユニバーサル アナリシスにデータ ファイルが開きます。

3. PDF ファイル (熱分析のみ): Acrobat PDF ファイルを選択すると、Acrobat Reader プログラムが開き、ファイルが表示されます。
4. BMP ファイル (熱分析のみ): ビットマップ画像ファイルを選択すると、右側のウィンドウに画像が表示されます。

メモ: 初期 (元の) データから作成されたレコード (保存されている分析 PDF ファイルなど) は、元のレコードの日付でデータベースに保存されます。



ソート順序をカスタマイズする

左側のウィンドウのツリービューで、データベースビューまたは監査査証ビューのツールバーにある  ボタンをクリックして図のようにウィンドウを開き、データベース情報を並べ替えることができます。

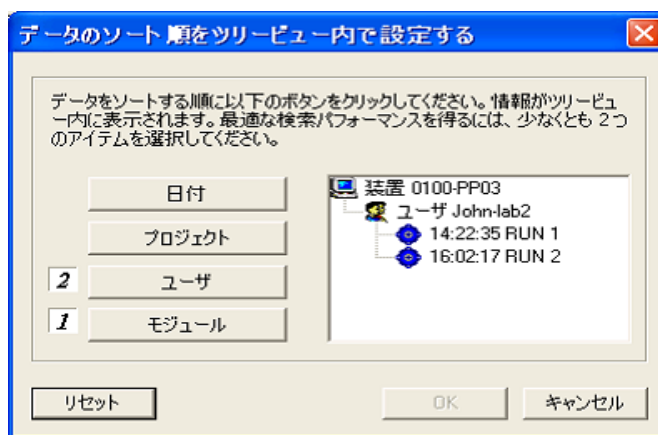
左側に表示される数字は、ツリービュー表示の順番設定を示します。順番を変えるには、以下の手順に従ってください。

1. [リセット] ボタンをクリックして、順番を消去します。

2. 階層を表示したい順番で、分類ボタンをクリックします。ボタンの横に、ツリービューのレベルを示す数字が表示されます。(最適な検索能力を得るには、2つ以上の項目を選択する必要があります。)

たとえば、「日付」を第一の基準にしてデータを並べ替えたい場合があります。この場合、「日付」ボタンを最初にクリックします。上図のとおり階層を設定するには、2番目に「ユーザ」ボタンを、3番目に「プロジェクト」ボタンを、最後に「モジュール」ボタンをクリックします。

3. 完了したら、[OK] をクリックします。データベースビューまたは監査査証ビューによって、指定した順番に従って情報が並べ替えられます。



監査査証イベントを表示する

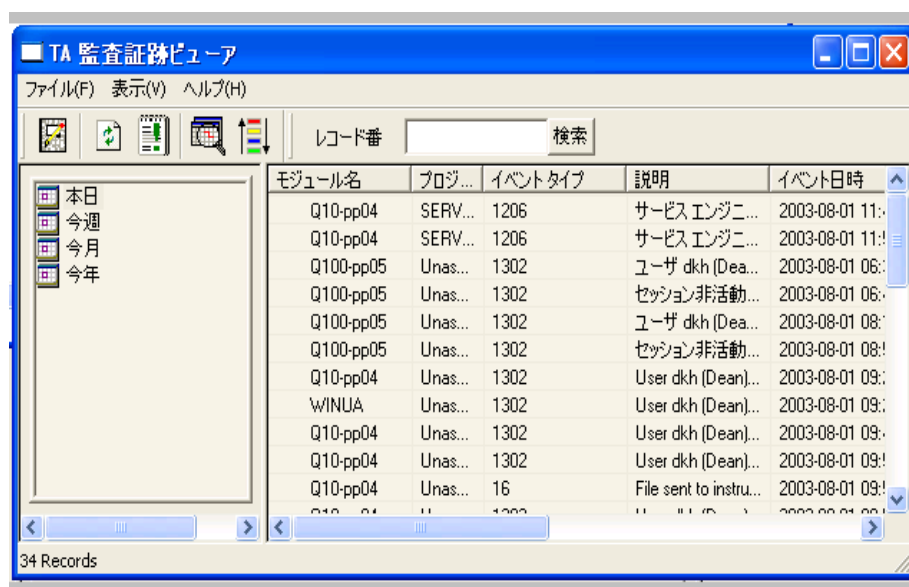
TA Instruments のインテグリティ システムでは、コンピュータが生成する、セキュアかつタイムスタンプの押された監査査証を、レコード イベントは別に提供します。各レコードは、ユーザ、日時、イベントの概要を示します。ユーザは、必要に応じてコメントを追加できます。

監査査証は、メニューから [表示/監査査証] を選択して、アドバンテージインストルメントコントロール プログラム、またはユニバーサル アナリシス プログラムのいずれかで表示できます。このウィンドウ (下図) を使用して、監査査証イベントを表示したり、

監査査証にコメントを追加することができます。また、[ソート順序の設定]



機能を使って、このウィンドウに表示されるイベントを並べ替え、レコードの特定を容易にすることもできます (詳細は、57 ページ参照)。



記録されるイベントとは？

使用中のインテグリティプログラムに応じて、監査査証にさまざまなイベントが記録されます。このセクションでは、監査査証ビューワで使用でき、記録されるイベントについて説明します。

インスツルメントコントロールイベント

記録されるイベントは以下のとおりです。

1. プログラムへのログイン/プログラムからのログアウト (自動ログアウトを含む)
2. 装置に関するすべてのメッセージ
3. 校正の変更 (レオロジー ゼロギャップおよびレオロジー温度システムの変更を含む)
4. ランの開始および終了イベント
5. レオロジーのランの上書き (温度、平衡など) と中止
6. 保存されたレオロジーのラン結果
7. 熱分析 Q シリーズのオートサンプラー パンのロード/アンロード
8. 実行中の試験に加えた修正 (たとえば、メソッドやガスの変更および追加、手順の変更)
9. 手順 (ファイルを開く、保存する)
10. Q シリーズメソッドまたはシーケンスファイルを開く、保存する
11. レオロジー ジオメトリ、セッションを開く、保存する
12. ソフトウェアのバージョン変更
13. レオロジー ファームウェアの更新

試験条件の詳細 (たとえば、熱分析メソッド、校正、装置パラメータまたはレオロジーの手順、ジオメトリ、装置オプション) は、それぞれデータレコードと一緒に保存されます。この情報は、[表示/パラメータ ブロック] を選択してユニバーサル アナリシスプログラムで表示するか、または通常データを表示するようにレオロジー アドバンテージ データ分析プログラムで表示することができます。

ユニバーサルアナリシスイベント

記録されるユニバーサル アナリシス プログラムのイベントは次のとおりです。

1. プログラムへのログイン/プログラムからのログアウト (自動ログアウトを含む)
2. データレコードを開く、エクスポートする (たとえば、印刷、PDF ファイルの作成)
3. 保存されている分析を開く、保存する
4. 結果およびデータレポートを開く、保存する
5. PDF ファイルを開く、保存する
6. ソフトウェアのバージョン変更

分析の詳細は、ユニバーサルアナリシスで作成された、保存されている分析、PDF、BMP 画像ファイル内の分析ログに記録されます。ユニバーサル アナリシスのデータレコードを開くと、すべてのアクションが分析ログに記録されます。分析が完了したら、[ファイル/分析の保存] や [ファイル/PDF ファイルのエクスポート] を選択して、このレコードを関連する分析ログと一緒に保存し、データベースに戻ります。データが保存されないと、分析ログは記録されません。保存した分析ログは、[データベースビュー] ウィンドウに表示することができます。

レオロジーデータ分析イベント

記録されるレオロジー データ分析プログラムのイベントは次のとおりです。

1. ログインとログアウト
2. データレコードのディスクへのエクスポート
3. セッションを開く、保存する
4. レポートの印刷と記録
5. ソフトウェアのバージョン変更

TA システムマネージャーイベント

記録されるTA システム マネージャー プログラムのイベントは次のとおりです。

1. プログラムへのログイン/プログラムからのログアウト (自動ログアウトを含む)
2. ユーザ アカウント、プロジェクト、システム オブジェクトおよびグループの作成、変更
3. システム設定の変更
4. アーカイブ

TA システム マネージャーの監査査証は、[システム設定] を選択し、[システム ログ] ページを選択して、TA システム マネージャーからのみアクセスできます。詳細は、アドバンテージ インテグリティ オンライン ヘルプを参照してください。


監査査証コメントを追加する


アクションまたはイベントの詳細を説明するために、既存の監査査証エントリにコメントを追加したり、または新しい監査査証エントリを追加することができます。監査査証コメントを追加するためにアクセスできる場所はいくつかあります。

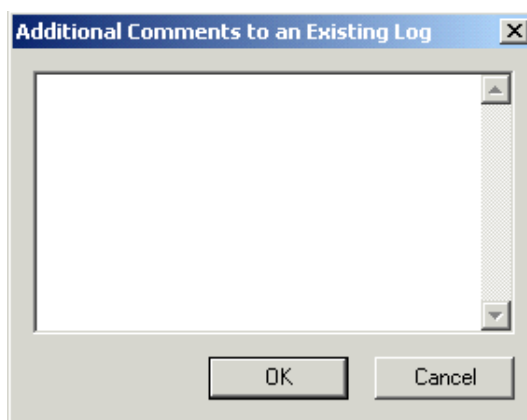
1. ユニバーサル アナリシス プログラムまたは装置制御プログラムで、新しいコメントを追加できます (次ページ参照)。
2. いずれかのプログラムの **【監査査証ビューワ】** ウィンドウで、既存の監査査証エントリにコメントを追加できます (次のセクション参照)。

既存の監査査証エントリにコメントを追加する

1. アドバンテージ インストルメントコントロールまたはユニバーサル アナリシス プログラムで **【表示/監査査証】** を選択して、**監査査証ビューワ**を開きます。

2. 監査査証で、コメントを追加するエントリを探します。監査エントリ  が見つかった

ら、ツールバーの  ボタンをクリックするか、または監査エントリをクリックして **【既存のログへの追加コメント】** ウィンドウを表示します。

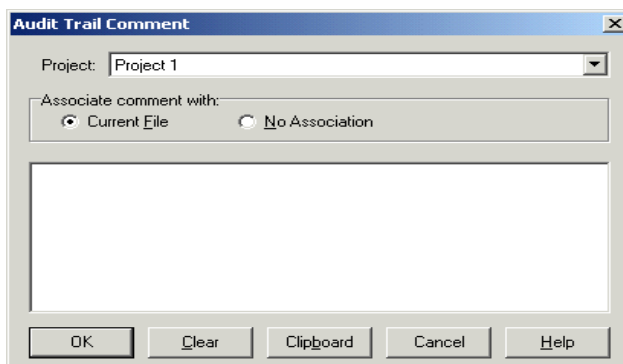


3. 監査査証エントリのコメント部分に、追加するコメントを入力します。
4. 完了したら、**【OK】**をクリックします。

新しい監査査証エントリを追加する

監査査証に新しい監査査証エントリを追加するには、以下の手順に従ってください。

1. 適切なプログラムを起動します。インストルメントコントロールプログラムの[表示/監査コメントの追加]またはユニバーサルアナリシスの[編集/監査査証コメント]を選択します。適切なウィンドウが表示されます(右側に表示)。

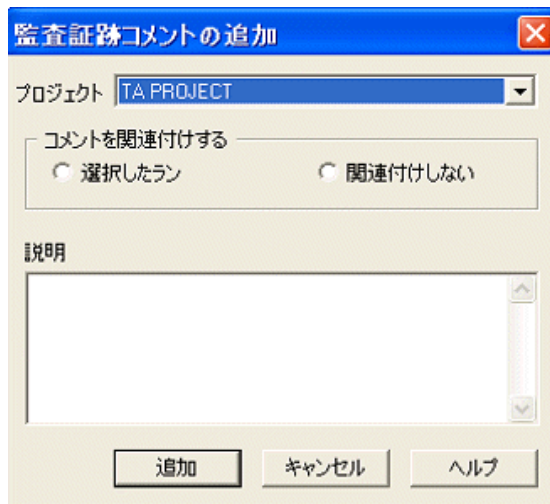


2. ドロップダウンリストからプロジェクトの関連付けを選択します。
3. ユニバーサルアナリシス:コメントエントリと現在のファイルを関連付けるか、または[関連付けなし]を選択します。

ユニバーサルアナリシスの監査査証コメントの追加

インストルメントコントロール:コメントエントリと選択したラン(たとえば、同じレコードID)を関連付けるか、または[関連付けなし]を選択します。

4. 適宜コメントを入力します。
5. 完了したら、[追加] (装置制御) または [OK] (ユニバーサルアナリシス) をクリックします。

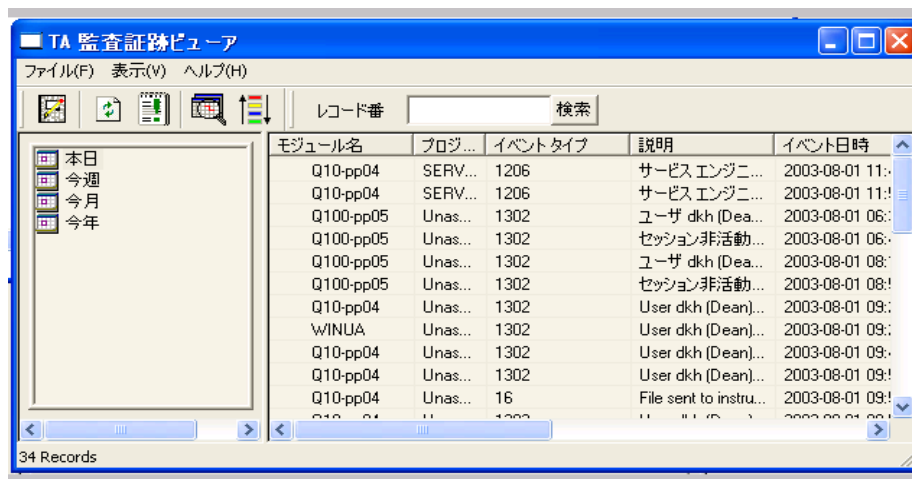



インストルメントコントロールの監査査証コメントの追加

監査査証エントリのレポートを表示する

コメントは、エントリの日時およびユーザ名と一緒に、監査査証ビューワの「コメント」列に表示されます(下図参照)。いずれのエントリにも複数のコメントを入力するこ

とができます。エントリの追加後、必要に応じて更新()します。



監査エントリをテキスト形式で表示するには、ツリー ビューで再開レベルまでブラウズし、目的の監査エントリ  を特定します。このエントリのテキストレポートは、右側にある「テーブル ビュー」ウィンドウに表示されます。

第 3 章

データベースのバックアップと アーカイブ

概要

Oracle® データベースの情報のバックアップを定期的に取りすることは極めて重要です。システムの整合性を最高の状態に保ち、データの検索を可能にするために、信頼できるユーティリティにバックアップを毎日取ることを推奨します。

バックアップ ユーティリティを購入する際、次の点を最低基準として考慮するとよいでしょう。

1. 使用中 (有効な) データベースをバックアップできること
2. ジョブのスケジューリング機能があること
3. レコードのソート機能があること
4. ネットワークを通じてサーバーと接続しているコンピュータから管理できること (任意)

多くの場合、バックアップ処理によってデータベースを起動または再起動することがあります。したがって、データベースに最低限の使用量がある場合に、バックアップ処理をスケジューリングすることを推奨します。

特定のハードディスクドライブフォルダにファイルをバックアップするだけでなく、バックアップ ファイルをテープや CD-R、DVD-R などの長期保存可能なメディアに格納する方法として、バックアップ用のユーティリティの使用を考慮することを推奨します。

Oracle データベースに含まれる情報をバックアップおよび復元する方法は数多くあります。このセクションでは、各自のニーズに最適なシステムの種類を決定する上で役立つ情報を提供します。

ビルトイン Oracle® 装置

Oracle のエンタープライズ マネージャーでは、バックアップ ユーティリティと関連ドキュメントを提供しています。これらは、Oracle 9i サーバー CD-ROM に収められています。このユーティリティを使用するには、OMS (Oracle マネージメント サーバー) を最低 1 台の Oracle サーバーにインストールする必要があります。Oracle 9i サーバー CD セットからインストールできます。

Oracle バックアップ ユーティリティの詳細は、次の Web サイトを参照してください。
<http://www.oracle.com/faqdbabr.htm>.

上記のユーティリティの他に、すべての Oracle サーバーにコマンドライン ベースのユーティリティがインストールされます。%OraHome%\bin フォルダに Ocopy.exe という名前でインストールされます。構文は、通常のコピー コマンドに似ています (つまり、`copy x:\databasefiles.dbf y:\backupdir`)。このコマンドによって、使用中のデータベース ファイルがコピーされますが、バックアップを実行する前にデータベースを停止させてしまいます。詳細は、お手元の Oracle マニュアルを参照してください。

追加のバックアップユーティリティ

ビルトイン Oracle バックアップ システムの代わりに、以下のいずれかを使用することもできます。

1. TA Instruments が提供している DDS/4 テープドライブ オプション。Oracle エージェントを搭載した Veritas Backup Exec の評価版が含まれます。

詳細については、<http://technet.oracle.com/deploy/availability/htdocs/bsp.htm> に用意されている Oracle BSP (バックアップ ソリューションズ プログラム パートナー) の広範なリストを参照してください。

2. 複数の GUI (グラフィカル ユーザ インターフェース) ベースの機能プログラムを利用できます。幅広く使われているユーティリティの 1 つは、<http://www.kiesoft.com/oraback> にある DBBackup パッケージです。このユーティリティには、使用中のデータベースのバックアップ、テープ デバイスのダイレクト サポート、CD-R/RW および DVD-R のサポートといった機能が搭載されています。

バックアップ ユーティリティに関する詳しい情報が必要な場合は、お近くの TA Instruments 営業所にご相談ください (営業所の場所は、次のセクションを参照してください)。

データのアーカイブ

データベースにレコードが溜まり始めると、データベースからデータをアーカイブする必要が生じる場合があります。アーカイブすることによって、時間を基準にレコードを使用中のデータベースから削除（アーカイブおよびパージ）し、今後のデータレコードのためにディスクの空き容量を確保することができます。アーカイブされたレコードは、外部メディア（たとえば、CD-R/W や DVD-RW）か、またはインテグリティソフトウェアで将来呼び出すために共有ハードドライブに保存されます。アドバンテージインテグリティソフトウェアでは、この処理を実行するための独自のアーカイブユーティリティを提供しています。詳細については、ソフトウェアの[ヘルプ]メニューを選択して、DBArchive ヘルプを参照してください。

TA Instruments 所在地

最新製品情報やその他の情報については、弊社 Web サイト (www.tainst.com)を参照してください。

TA Instruments, Inc.
109 Lukens Drive
New Castle, DE 19720
電話番号: 1-302-427-4000 または
1-302-427-4040
ファックス番号: 1-302-427-4001

ヘルプライン(米国内)
熱分析用アプリケーションについては、熱分析ヘルプ・デスクにお問い合わせください。
電話番号: 1-302-427-4070
サービス (米国内)
装置サービスおよび修理
電話番号: 1-302-427-4050

ベルギー / ルクセンブルグ
TA Instruments a Division of Waters N.V.
Raketstraat 60 Rue de la Fusee
1130 Brussel / Bruxelles
Belgium
電話番号: 32/2 706 00 80
ファックス番号: 32/2 706 00 81

ヨーロッパ
TA Instruments Ltd
Cleeve Road
Leatherhead, Surrey KT22 7UQ
United Kingdom
電話番号: 44/1372 360363
ファックス番号: 44/1372 360135

フランス
TA Instruments Division de Waters SA
1-3, Rue Jacques Monod
78280 Guyancourt
France
電話番号: 33/1 30 48 94 60
ファックス番号: 33/1 30 48 94 51

ドイツ

TA Instruments Germany
Max Planck Strasse 11
63755 ALZENAU
Germany
電話番号:49/6023 96470
ファックス番号:49/6023 964777

イタリア

Waters S.p.A.
Via Achille Grandi, 27
20090 Vimodrone (Milano),
Italy
電話番号:39/02 27421 283
ファックス番号:39/02 250 1827

日本

ティー・エイ・インスツルメント・ジャパン
東京都品川区
北品川 1-3-12
第5小池ビル 4階
日本
電話番号:81/3 5479 8418

オランダ

TA Instruments
A Division of Waters Chromatography bv
Postbus 379 / Florijnstraat 19
4870 AJ Etten-Leur
The Netherlands
電話番号:31/76 508 72 70
ファックス番号:31/76 508 72 80

スペイン

Waters Cromatografia S.A.
Entenza 24 Planta Baja
08015 Barcelona
Spain
電話番号:34/93 600 93 00
ファックス番号:34/93 325 98 96

スウェーデン/ ノルウェー

TA Instruments Division of Waters Sweden

PO Box 485

S-191 24 Sollentuna

Sweden

電話番号: 46 (0) 8 555 11 500

ファックス番号: 46 (0) 8 555 11 520

オーストラリア

TA Instruments

C/O Waters Australia Pty. Ltd.

Unit 3, 38-46 South Street

Rydalmere NSW 2116

Australia

電話番号: 613 9553 0813

ファックス番号: 61 3 9553 0813